

「防災公園」グループ 事業計画の見直し

公益財団法人東京都公園協会

目 次

II 事業計画

2 人員配置計画等

- (3) 人材の確保と職員の技術・能力向上への取組 6 3

3 運営管理計画

- (1) 都立公園の管理運営についての方針と具体的な取組 6 5
- (2) 利用者要望の把握方法と管理業務への反映方法 6 9
- (3) 質の高いサービスを提供するための具体的な取組 7 1
- (4) 公園の魅力向上と利用促進を図るための自主事業等の提案 7 5
- (5) オリンピック・パラリンピック後も見据えた公園の魅力向上の取組 7 8

4 施設維持管理計画

- (1) 防災関連施設の維持管理 8 1
- (2) 事故及び自然災害、感染症等を未然に防ぐための安全対策、発生時の対応 8 6
- (3) 要望やオリンピック・パラリンピック後も見据えた施設補修、施設改良への取組 8 9
- (4) 維持管理業務の進め方（光が丘公園） 9 3

5 防災業務計画

- (1) 防災公園グループとしての平常時の対応 9 5
- (2) 防災公園グループとしての災害時の対応 9 8
- (3) 地域との連携、防災訓練の実施 1 0 0

2 人員配置計画等

(3) 人材の確保と職員の技術・能力向上への取組

1 ニーズ等に的確に対応できる人材配置・育成の考え方

公園を取り巻く社会環境が大きく変化し、都民ニーズも多様化・高度化する中で、これらの変化に柔軟かつ機動的に対応できる、公園の管理運営に関する総合的な知識、理解及び実行力を有する人材の確保・育成は極めて重要と考えます。私たちは、これまで「人材育成計画」に基づき、公園管理の経験や能力に応じた育成を行ってまいりました。今後は更に、以下に示すように、公園管理のプロとして様々なニーズに的確に対応できる人材を確保・配置し、育成に努めてまいります。

- ① 「公の施設」管理者としての基本的な心構えや取組姿勢を堅持し、様々な課題等に的確に対応、行動できる人材
- ② 関係法令や行政の基本指針等を熟知するとともに、公園管理運営に係る豊富な知識、技術、ノウハウを持つ人材
- ③ 利用者やボランティア、地域住民等とのつながりを大切に、適切な対応ができるホスピタリティの高い人材

2 人材配置の方針（部署ごとに求められる職員配置と必要能力）

下表のとおり、各部署において必要とされる知識、能力、ノウハウ等を持つ人材を配置します。

部署	S C・統括部署		SC長・統括所長・担当課長	本社スタッフ
配置する人材	(管理運営) ○受付・サービス、利用者指導・調整・適正化を行う人材	(維持管理) ○公園施設・樹木等維持管理、生物多様性保全・普及等を推進する人材	公園管理運営を総合コーディネート・調整し、パークマネジメントを推進する人材	専門知識・ノウハウにより各S C・統括部署を支援・指導する人材
職務上必要な知識・能力	○事務処理能力 ○接客対応力 ○利用者・ボランティア等の調整能力 ○広報案内・情報発信力	○造園技術に係る能力、樹木点検等ノウハウ ○動植物に関する知識、生物多様性保全・普及能力 ○遊具ほか公園施設等の安全点検・補修等能力	○パークマネジメントに係る総合的な知識と実行力 ○都市公園法・公園条例等法令等の理解と的確な判断力 ○施設管理・安全衛生に関する総合的な知識・能力	○防災、安全・防犯、研究開発、都民協働、樹木健全、企業連携、企画デザイン、生物多様性保全等、専門的な高度な知識・ノウハウ等 ○建築・土木・造園・電気等専門技術とノウハウ
共通して求められる基礎・防災能力	①発災時に公園管理者としての役割を確実に遂行できる防災対応力 ②都市公園法や都立公園条例、基準・規則等に係る基礎知識、その他公園管理運営に関する知識 ③「公の施設」の管理者としての公平公正なサービス提供に係る認識と対応力 ④接客等に係るCS能力や、公園やまちの案内ができる語学・会話能力 ⑤情報セキュリティ、コンプライアンス、公金管理、SDGs等に関する知識と対応力 ⑥応急手当やAED操作力等を始めとする基本的な危機管理能力 ⑦自然、歴史、文化に対する知識・普及能力 ⑧その他、公園施設・樹木等の安全点検能力、都民協働や利用者調整等の能力			

3 人材確保の方針

私たちは、以上の人材配置の考え方等に沿って、次の方針に基づいて人材確保を進めてまいります。

(1) 中長期的な視点を見据えた計画的な採用の実施

- ・若手職員を計画的に採用し、前述のような公園管理に必要なスキルを有する人材として育成し、適材適所に配置するとともに、即戦力のスキルを持ったプロフェッショナルも採用していきます。
- ・都派遣職員を含めた公園協会の持つ技能を継承する若手職員を継続的に採用していきます。

(2) 公平・公正を確保する幅広い採用窓口の活用

- ・造園系大学等、専門の大学や高等学校、職業訓練校とのインターンシップや研修生の受入れを通じた教育機関等のつながりを活用していきます。
- ・民間や公共のあっせん機関を活用し、幅広い人材を確保していきます。
- ・ホームページや、メディア等の活用により採用機会の公平性・公正性を確保します。

(3) 事業の継続性・安定性を重視した採用

- ・これまで従事してきた職員をできる限り継続的に雇用し、事業の継続性、安定性を高めてまいります。

4 職員の能力向上に向けた取組

前述した部署ごとの役割等に応じて、下記のように人材ごとに能力向上に向けた取組を進めていきます。

なお、これらの取組によって、これまでに各種資格を取得した職員の推移は下図のとおりです。

受付窓口対応、利用者サービスやボランティア指導調整等を行う人材育成の取組

- ①公金管理研修
- ②CS トレーナー研修
- ③OJT 担当者育成研修
- ④都民協働（基礎、応用）研修

公園施設等維持管理を適切に行い、生物多様性保全を進める人材育成の取組

- ①公園の維持管理技術のスキルアップを図るための設計・積算、施工管理に関する研修により、自己啓発を含め、造園施工管理技士、造園技能士等資格取得を推進
- ②自然観察指導員養成講座を受講し、動植物及び生物多様性保全等の知識・能力を向上させ、資格取得等を推進
- ③樹木点検員養成研修、樹木医講習会等のほか自己啓発を含め樹木医取得を推進
- ④高所作業車運転技術講習会、チェーンソー等特別講習会、OJT による剪定作業訓練、野球場やテニスコートの維持管理実習による能力の向上

総合的にパークマネジメントを実践する人材育成の取組

- ①パークマネジメント研修
- ②安全衛生推進者養成研修
- ③インクルージョン研修（バリアフリーコミュニケーション等）
- ④SDGs 研修

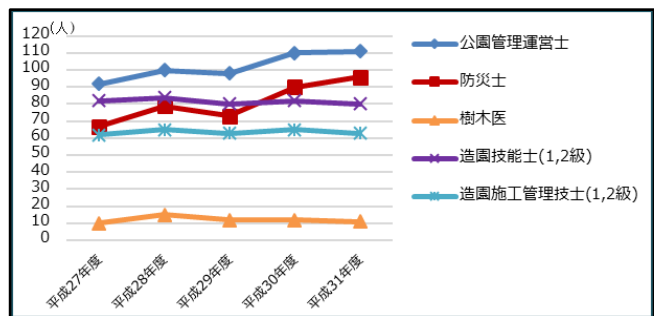
現場を支援・指導する人材育成の取組

- ①エリアマネジメント研修

防災能力向上等の公園管理者としての基礎的取組

- ①定期的な防災訓練、防災士取得等の取組みによる防災対応力の向上
- ②接遇等に係る CS 研修、③個人情報等コンプライアンス研修、④応急手当や AED 研修
- ⑤公園管理運営に関する専門研修 ほか

分野別資格保有職員数	基礎的能力	公園管理運営士 111 名 防災士 96 名 上級救命講習修了 339 名
	専門的能力	樹木医 11 名、 造園技能士(1,2 級) 80 名 造園施工管理技士(1,2 級) 63 名



図：公園協会における各種資格保有職員数と推移



5 その他の取組

1 ダイバーシティの推進

- ・東京都の政策連携団体として女性活躍の場を広げ、管理職、主査に占める女性割合の増加を目指し、男女ともに働きやすい雇用環境を整備していきます。

2 ライフワークバランスの推進

- ・東京都の政策連携団体として計画的に事業を執行し、超過勤務の縮減と年次有給休暇の取得を推奨し、働きやすい職場環境づくりを行います。
- ・テレワーク、時差出勤を進め、通勤にかかる負担の軽減と新型コロナウイルス感染症拡大防止を図ります。

3 緑と水の市民カレッジに蓄積したデータから公園の歴史を学習

- ・スタッフ一人一人が公園協会が運営する「みどりの図書館“東京グリーンアーカイブス”」に蓄積した資料から各公園の歴史を学び、利用者案内等に活用していきます。

3 運営管理計画

(1) 都立公園の管理運営についての方針と具体的な取組

1 管理運営の基本方針

昨今、世界共通の課題を解決する動きが加速してきています。日本においても東京 2020 大会の開催も契機となり、その考え方が急速に浸透し、新型コロナウイルス対策や SDG s への取り組みに積極的に参画しています。


本グループの公園は、「大規模救出救助活動拠点」等に指定されている 21 公園から構成されており、発災時にはヘリポートや避難場所としての重要な役割を担う一方、平常時には東京を代表する大規模公園として、人々の憩いの場、スポーツ・レクリエーションやコミュニティ形成の場としての役割・機能を果たしています。

私たちは、公園を取り巻く環境の変化や新たなニーズを的確に捉え、SDG s の取り組み等社会的課題解決の一助となるよう取り組みます。また、公園やその周辺地域の特性を踏まえ、地域住民・団体等と連携を図り、『人々の命を守る「首都東京のシンボルパーク」』としての価値を以下の方針で高めていきます。

環境変化・新たなニーズ	対応方針
度重なる大地震や風水害による防災意識の高まり  	①都や地元区市との協定・確認書締結に向けた協議、周辺住民等と訓練連携を強化やし、地域の安全・安心な基盤を提供します。 ②地域特性に応じ、地震に加え、風水害等も想定した防災訓練や日頃の普及啓発、減災に向けた維持管理を強化します。
新型コロナウイルス感染防止に配慮しつつ新たな公園利用促進 	①新型コロナウイルス感染防止に配慮し、安全・安心な施設管理を進め、コロナ禍での新たな公園活用を推進します。
東京 2020 大会の開催  	①様々な年齢、国籍、障害の有無にかかわらず誰もが参加できるスポーツプログラムの提供、ユニバーサルデザインへの公園施設の改良により、東京 2020 大会を契機とし、大会後もダイバーシティへの取り組みを継続します。 ②公園の代表的景観「パークビュースポット」を磨き、シンボルパークとしての更なる地域の魅力向上に貢献します。
地域連携によるライフスタイルの多様化  	①地域の様々な団体と連携し、教育、文化、地域の活性化に寄与する多様なイベント・プログラムを実施します。 ②ボランティアや大学、地域等との連携を強化し、公園管理への協力を積極的に受け入れ、社会貢献を推進していきます。
生物多様性の保全・普及啓発 	①生物多様性保全の公園別計画の作成や見直し、都と連携した生物多様性の取組を更に発展・拡大します。 ②省エネ機材の導入、機器の更新などにより環境に配慮した施設管理、維持管理を実施します。 ③生物多様性の取組を幅広く発信し、普及啓発に努め、身近にある豊かな自然を実感、地域の誇りとして醸成します。
少子高齢化の進展 	①世代に合わせたプログラムを提供し、公園の利用者層を厚くすることで多世代交流の機会を増やします。 ②大学や NPO 等と連携し、体験学習の場を積極的に展開し、子育てしやすい地域環境を一緒に創出します。

2 公園別の管理運営方針・取組

私たちは公園別マネジメントプラン及び前項の方針に基づくとともに、各公園の立地特性や利用特性等を捉え、公園別の管理運営方針と主な取組内容を以下のように設定し、公園の管理運営に取り組みます。

	公園及び周辺地域の特性	管理運営の方針	取組内容
東白鬚	<ul style="list-style-type: none"> ●水害に対する危機意識の高まり ●防災トイレ等施設整備により防災機能拡充 ●公園に隣接した区立陸上競技場新設 ●下町の貴重な緑の空間 	まといに集まれ！ 地域の防災力を高め 人々が集う拠点 	<ul style="list-style-type: none"> ■公園から地域へ、地域全体の防災力強化 <ul style="list-style-type: none"> ○地域の防災施設を巡る「防災遠足」の内容充実、○防災施設の運用や水害対策などを取入れた訓練の実施、○汐入公園と連携した「防災フェスタ」に新メニュー ■様々なイベントの実施による交流機会の提供 <ul style="list-style-type: none"> ○区立競技場や地域の団体と協力した健康づくり教室の実施、○公園でいろいろな体験ができる「パークスクール」の開催、○子ども向け環境教育の実施

木場	<ul style="list-style-type: none"> ●木場ミドリアム（キッズリアム）改装 ●多面的活用プロジェクトによる民間飲食店 ●園内の保育園 ●イベント池（角乗池） ●東京都現代美術館 ●都市緑化植物園 	<p>緑も遊びも文化芸術も！ 地域に根差し 子どもの心に残る公園</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ■幅広い世代が交流できるプログラム展開 キッズリアムや公園友の会、地元地域と連携した幅広い層が楽しめる自然遊びプログラム、Webセミナー開催 ■地域に根差した公園の活用、魅力発信 ○エリアマネジメント協議会を通し、公園を活用し地域の課題解決を目指す、○現代美術館やボランティア団体と連携した野外アートプログラムで情操教育支援、○伝統技能「木場の角乗体験」等下町文化フェスティバル開催 ■地域の防災力向上。様々な世代が参加する防災訓練 江東区や近隣町会等との連携訓練継続。気軽に防災を体感できるプログラムによる普及促進
砧	<ul style="list-style-type: none"> ●誰でも楽しく遊べる「みんなのひろば」 ●フォトスポットとして人気のバラ園 ●高齢者の引きこもりが地域の課題 ●世田谷美術館 ●クロスカントリーランの聖地 	<p>すべての子どもと文化を育てる公園</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ■誰もが楽しく遊び学べる空間を ○ユニバーサルデザイン遊具のWeb配信やイベントを実施し、みんなのひろばの利用と理解を促進、○ユニバーサルデザインに配慮したガイドや展示を盛り込んだバラを観る会を実施、○地域の課題「高齢者引きこもり」に着手し、公園を活用したプログラムを展開 ■スポーツ、芸術文化を伝える ○クロスカントリーin 砧等のスポーツイベントを開催、○美術館との連携によるアート展を開催、○地域と連携した青空コンサートや地域交流イベントを開催
駒沢オリンピック	<ul style="list-style-type: none"> ●東京 1964 大会会場 ●東京でも有数の大型スポーツ施設が多い ●駒澤大学と隣接 ●公園に併設されたお洒落なカフェ「Mr. FARMER」 	<p>スポーツやレクリエーションを通じて人と地域をつなぐ公園</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ■多世代が楽しめるスポーツプログラム 体育施設等と連携し、東京 2020 大会の開催後も多世代が楽しめるスポーツプログラムを実施 ■みんなで一緒に創りあげる魅力的なイベント群 ○駒澤大学や近隣ショップと連携し、キャンドルアートやファーマーズマーケットなど、多様なプログラムを取り入れた駒沢ファンタジアを開催、○Mr. FARMER と連携し、食、スポーツ、防災に関するイベントを開催
代々木	<ul style="list-style-type: none"> ●東京 1964 大会のレガシー公園 ●多様なニーズに応えるインクルーシブフィールド ●聖地「バスケットコート」、「陸上競技場（織田フィールド）」 	<p>都会の真ん中、 安らぎの空間と賑わいが交差する公園</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ■新たな賑わいを創出するコミュニティ ○オリンピック記念宿舍や陸上競技場を活用したスポーツの歴史や文化を発信、○自然体験・健康・福祉など、みんなの「できたらいいな」を利用者と一緒に具現化 ■スポーツブランドの更なる向上 陸上競技場やバスケットコートでのスポーツイベントや歴史紹介などを YouTube 配信
善福寺川	<ul style="list-style-type: none"> ●サクラの名所 ●人気の散歩コース ●近年オオタカの営巣地として定着 ●ボランティアや近隣住民の高齢化 ●周辺は住宅地、若い世代も居住 	<p>サクラ並木と心やすらぐ緑の回廊</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ■心やすらぐ回廊を維持するために新たな風を ○サクラの補植やマップ作製によるサクラ並木の魅力向上、○清掃・花壇・オオタカ保護等、公園利用者が気軽に参加できるボランティア活動を新たに企画・実施 ■豊かな自然を活用したプログラム ○生物の夜の観察会を実施、○自然の中で、親子で楽しめるスポーツ教室やピラティス教室を実施
和田堀	<ul style="list-style-type: none"> ●善福寺川に沿い、善福寺川緑地に隣接 ●水害に対する危機意識の高まり ●和田堀池や済美山自然林、観察の森など豊かな自然環境 ●大宮遺跡等の歴史資源・郷土博物館も隣接 	<p>WA! × 3 古代から現代まで人が集まる公園</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ■人と人とのつながりの「WA! (輪)」 地域住民と連携し、土のう作りや防災施設見学ツアーを善福寺川緑地と合同で実施 ■子ども達をワクワクさせる「WA! (ワクワク)」 ○和田堀池を活用した自然観察会開催、○済美山自然林や観察の森を活用。昆虫観察・採集体験会実施、○郷土博物館と連携。古代にタイムスリップ体験ができる古代体験イベントを実施 ■ワイワイと賑やかさを創出する「WA! (ワイワイ)」 子どもが元気いっぱい運動するスポーツイベントを実施

<p>汐入</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●再開発事業による中高層住宅エリア内に立地 ●多目的広場、大型複合遊具が子どもに大人気 ●区立保育園開園 ●ハーブ園が地域のシンボルとして浸透 	<p>過去と現在を結ぶ地域の人々を結ぶ結び目となる公園</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ■子どもの利用に配慮した公園管理の推進 子ども目線での施設管理。学校や保育園と連携した安全教育等ソフト支援。コロナ禍でも子どもたちがのびのび遊べる環境を提供 ■地域の歴史の継承 再開発前の歴史をイベントやSNSで紹介 ■公園利用メニューの充実で交流機会を拡大 ○ボランティアとの協働でハーブ体験、○企業連携によるマラソン教室等、多様な利用メニューを提供
<p>城北中央</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●周辺は住宅地 ●茂呂遺跡・栗原遺跡などの歴史的資源がある ●運動施設が充実している運動公園 	<p>いつまでも愛されるみんなで育てる公園</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ■みんなでつくり育てる ○地域団体やボランティアと連携し、オータムフェスタを開催、○周辺地域や公園利用者が主体となって、青空図書館等の地域の活性化につながる事業を実施 ■公園に愛着をもってもらうために ○地域の歴史を色濃く残す「茂呂・栗原遺跡」で体験型の「古代フェスティバル」を実施、○利用者ニーズを捉えたスポーツ教室を実施
<p>光が丘</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●都内有数の大団地の一角 ●親子連れを中心に賑わう広大な芝生広場 ●フォトスポットや散歩コースとしても人気のイチヨウ並木 ●バードサンクチュアリや雑木林など豊かな自然 	<p>再発見がいっぱい！親子で楽しめるコミュニティパーク</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ■子どもが主役のイベントコミュニティ ○親子で楽しめるプレーパークなどの地域交流イベントを開催、○芝生広場を活用した子ども向けのスポーツイベントを実施、○夜の生き物観察会等を実施 ■マスコットキャラクターでお出迎え 開園40周年(2021年)記念として、公園に親しみや愛着をもってもらえるよう、マスコットキャラクター等を作成 ■安全・安心のコミュニティスペースを 夜間公園利用におけるマナー向上キャンペーンを実施
<p>舎人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●整備が進行しC地区に自然観察ひろば、冒険の丘遊具広場新設 ●地元の団体との協力関係の深まり ●大池、バードサンクチュアリ等の貴重な自然 	<p>「とねりん」が見守る楽しく遊べる防災拠点</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ■イベント開催でみんなを笑顔に ○スポーツ連盟など地元の団体と連携したスポーツ体験会やふれあいフェスタの開催、OC地区での子ども向け新規イベントなど、誰もが楽しめるイベントを開催し交流機会を創出、○ボランティアと協力し生物多様性が学べる自然観察会実施 ■地域連携による防災力の向上 防災フェスタ出展者と連携し、新型コロナ対応や障害者支援などの訓練メニューを導入
<p>水元</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●都内唯一の水郷景観 ●花菖蒲の名所 ●生物多様性保全の拠点となる水辺のさとエリア(水産試験場跡地) ●多くのボランティアグループが活動 	<p>生物多様性をまもるみどり水の憩いの公園</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ■みどりと水の憩いの空間としての価値向上 ○品種の充実や管理手法の工夫によるはなしょうぶ園の魅力向上、○計画的な樹林地管理による景観の維持、○情報発信強化により憩いの空間としての利用を促進 ■都民協働による生物多様性保全の推進 ○ボランティア連携により水辺のさとエリアの管理運営方針を改訂、○水元の自然を紹介する企画展を開催
<p>篠崎</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●防災訓練の継続により地域とのつながり強化 ●水害に対する危機意識の高まり ●ハーモニーフェスティバルが地域に浸透 ●アジサイ園の充実 	<p>アジサイとスポーツで地域の新たな魅力を創出</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ■地域の防災力強化 水害対応、感染症対策など新たな訓練を導入 ■「食とスポーツのハーモニーフェスティバル」の拡充 連携先を拡大しパラスポーツ体験などを取り入れ、地域の一大イベントに拡充 ■アジサイ園の充実により花の名所としてアピール ○地域の協力を得て苗木を育成し、アジサイ園を充実 ○家族向けのメニューを取り入れアジサイまつりを拡充
<p>武蔵野中央</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●中島飛行機製作所跡地の広大な「原っぱ広場」 ●ボランティアによる花壇づくり ●武蔵野の自然を保全する生物多様性の取り組み基盤が整った 	<p>原っぱと大空が見守る多世代交流拠点</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ■地域の声を反映。地域に根付いた子育て支援の受け入れ 子どもが思いきり遊べ、親の子育て支援の取組 ■公園の起源をいつまでも忘れないために ○武蔵野の森・府中の森・東大和南と連携し戦争の歴史を地域で継承、○戦争遺跡の情報発信強化 ■公園資源を活用した地域連携の第一歩 ○武蔵野の生物・植物が生育できる環境保全やそれに関わるプログラムを地域で展開 ○「ガーデニングショー」等で情報発信

府中の森	<ul style="list-style-type: none"> ●美術館、著名作家の周旋 ●地域の文化・スポーツ・レクリエーションの拠点 ●300mの桜並木 ●花の広場モニュメント噴水や流れ等の修景施設 ●ユニバーサルデザイン遊具の新設 	<p>芸術・文化とスポーツを通してみんなの笑顔があふれる公園</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ■ラグビーワールドカップ 2019 を後世に受け継ぐ ラグビーW杯2019を受け継ぎ、地域と「ラグビーの町府中」を普及する仕組みを構築、実施 ■地域芸術の拠点として、様々な年代に魅力を発信 ○市立美術館と連携し野外アート展や日本伝統文化を感じるイベント開催、○モニュメント噴水を拠点に魅力発信 ■子どもたちのコミュニケーション形成の手助け ○地域と一緒にユニバーサル遊具活用、○地域のコミュニティ・心のバリアフリーにつながる取り組み実施
武蔵野の森	<ul style="list-style-type: none"> ●東京2020大会自転車競技開催スタート地点 ●多様なスポーツ・レクリエーション活動の拠点 ●子育て支援の拠点「のびのび親子館」 ●掩体壕等の戦争遺跡 	<p>飛行機の離着陸を仰ぎみる子育てにやさしい公園</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ■東京2020大会の感動をいつまでも 自転車競技のスタート地点として五輪機運醸成、そのレガシー継承する広場・園路の名称公募等実施 ■「のびのび親子館」を拠点に地域の子育て支援 乳幼児向け母子ストレッチ教室や年長向けの遊びや学びのプログラムの充実、地域と一体で子育て支援 ■戦後80年。園内戦争遺跡や記録を次世代に受け継ぐ ○ボランティアや自治体等と連携し掩体壕ガイドツアーや戦跡パネル展示会等開催、○武蔵野中央・府中の森・東大和南公園と地域の戦争の歴史を発信
小金井	<ul style="list-style-type: none"> ●緑豊かな広場と広大な樹林地 ●多様なスポーツ施設 ●名勝小金井桜を継承する桜の園 ●玉川上水に近接 ●江戸東京たてもの園 	<p>武蔵野の文化と桜を育む地域参加型マルチパーパスパーク</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ■利用者を元気にするプログラム提供 ○近隣自治体・団体と連携してスポーツや健康づくり促進イベント開催、○WEBを用いた情報発信を実施 ■趣きある武蔵野文化の魅力を発信 地域連携を活かし、桜や梅等を楽しむイベントや地域資源を知るワークショップ等、交流や参加の場創出 ■豊かな武蔵野の自然を守り、楽しむ取組 ボランティア団体等とともに、桜を継承する保全・再生の取組、雑木林等の魅力を体感する観察プログラム等を実施
東村山中央	<ul style="list-style-type: none"> ●武蔵野の自然・雑木林 ●バードサンクチュアリ ●バタフライガーデン ●大きな原っぱ(中央広場) ●狭山・境緑道に近接 ●地域の観光振興としてアニメ導入の動きがある 	<p>武蔵野の面影・雑木林を地域と一緒に輝かせる公園</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ■公園から自然の魅力を次世代に伝える取組 雑木林等を子どもたちの環境教育の場として活用(クラフト教室、自然観察会)生物多様性の普及啓発推進 ■地元で愛される広場の活性 原っぱ広場を地域交流の場として地元団体と一緒に盛り上げ、利活用の提供 ■アニメを起点とした公園利活用の活性化 当園が舞台となったアニメで地域と共に地域活性化
東大和南	<ul style="list-style-type: none"> ●せせらぎ、雑木林 ●野球場、テニスコート、運動広場などのスポーツ施設が充実 ●戦争遺跡(旧日立航空機(株)立川工場変電所) ●野火止用水や玉川上水 	<p>歴史とスポーツが織りなす憩いの公園</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ■地域と一体となって楽しめる公園遊びの提供 地元連携による公園フェスタやスポーツイベント開催 ■公園内戦争遺跡から始まる歴史散策 ○武蔵野中央・武蔵野の森・府中の森と連携し戦争の歴史を地域と一緒に伝承、○市と連携し戦跡ガイドツアー開催 ■地域を歩いて魅力発見。地域の豊かな自然を紹介 地域の豊かな自然を伝えるセルフガイドパンフレットを作成・配布。野火止用水・玉川上水ウォーキング等で活用
秋留台	<ul style="list-style-type: none"> ●3種公認陸上競技場を有し、隣接するあきる野市営運動施設とともに地域のスポーツ拠点 ●バラ園やコニファー園噴水などの修景施設が充実 	<p>山並みを背景(バック)にバラとスポーツが心と身体をリフレッシュ!</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ■西多摩を代表する陸上競技場を活用した地域との交流 ユニバーサルスポーツ祭や、体育館と連携した総合スポーツイベント開催、地域住民の健康増進・交流を支援 ■バラから始まる公園の魅力促進 公園の魅力を伝えていくため、バラ園を活用した地域連携をさらに進め、ローズフェスタ(春秋)を実施 ■口コミを誘発し、新たな利用者層の獲得 SNS映えを意識した地域のフォトスポットとして普及

(2) 利用者要望の把握方法と管理業務への反映方法

1 基本的な考え方

私たち公園協会は、指定管理者、政策連携団体、公益財団法人として公平・公正な対応をモットーとし、関係法令等を遵守した適正な管理運営を実施します。実施に当たっては、適切かつ迅速に、誠意を持って利用者等に接するとともに、相反する意見がある場合は、双方の言い分を丁寧に聞く対話型の対応を行います。

2 要望の把握と改善のサイクル

1 様々な手段による意見の収集

各公園、公園協会本社等で様々な手段を活用し、ご意見を収集します。意見収集の際は、利用者のニーズを丁寧・誠実に伺います。

各公園での意見収集 () は聞き取り対象
・ SC 来所対応、電話等対応、ご意見箱 (公園利用者)
・ イベント時アンケート調査 (イベント参加者)
・ 各種団体等へのヒアリング (障がい者、保育関係者、高齢者、外国人) ※園内の使い勝手や利用ルールをヒアリング、公園の管理運営状況等を確認、改善
・ 公園連絡協議会 (テーマに応じ、公園内や近隣の各施設、公共機関、ボランティア、NPO等) ※イベントの連携や公園、地域の課題について情報交換、解決策を協議、対応
協会本社での意見収集 () は聞き取り対象
・ HP 問い合わせフォーム〔TOKYO パークス・ホットラインシステム〕 (公園利用者)
・ 協会代表電話 (公園利用者)

2 利用者の声登録システムへの登録・分析

SC、本社で受けた苦情や要望、ご意見等は、1 問合せ、2 感謝・激励、3 苦情・要望の3種類に分類し、公園協会イントラネットの利用者の声登録システムに登録、公園協会全体で共有します。同時に、公園協会が管理する他公園の過去の事例を参照し対応策を検討します。

1 問い合わせ (主な例)	2 感謝・激励 (主な例)	3 苦情・要望 (主な例)
・ 駐車場利用 ・ スポーツ施設 ・ ドッグラン ・ 占用利用 ・ バーベキュー ・ イベント	・ 迷子対応 ・ 遺失物、拾得物対応 ・ 双眼鏡貸出 ・ 授乳室貸出	・ 管理運営 ・ 維持管理 ・ 接遇 ・ 園内ルール

利用者の声登録システムへ登録
過去事例の参照と今回の事例の蓄積

3 意見への対応

安全・安心に係る 緊急性の高いもの等	接遇等の ソフト面に関する意見	その他の施設の改修やルールの変更、 動植物の保全等に関するご意見
迅速に現場を確認し、対処するとともに、直ちに東京都に連絡・調整を図ります。	SC内で共有し、CSマニュアル、バリアフリーコミュニケーションマニュアルを元に振り返りを行います。	利用者ニーズを分析しつつ、SC、防災公園グループ、本社、東京都、関係機関と協議し、調整しながら対応します。

- 毎月、各エリア内で会議を行い、対応状況の進捗を確認し、未対応の発生を防止します。
- 対立意見がある場合等は、当事者や関係機関等と話し合いの場を持ち、対応します。東京都とも調整し、必要に応じルール改正を行います。

4 意見の共有、公開

- 特に、公園の質の向上やお客様の満足度向上につながる案件については、「CS推進委員会」「事業計画・報告会議」で共有化を図り、他の公園への横展開等を進めることにより、グッドジョブ効果(いい仕事をきちんと評価し、共有することで仕事に取り組む姿勢に変化をもたらす)を反映し、公園管理レベルの向上を進めていきます。
- また、苦情・要望等の対応状況については、SCの掲示板により、利用者に公開するなど、公園利用者等の信頼・満足度向上を図ります。


公園の品質向上

公園利用者の満足度向上

5 顧客満足度の分析、改善

上記と別に、指定管理者の要件として実施する顧客満足度調査を活用し、苦情・要望・ニーズの把握を行い、公園のサービス向上や施設改修に活用します。

3 お客様の声に対する対応と業務への反映

フロー	例：マスク着用の是非 / 対応内容	
①要望の把握	●公園利用者から「感染症対策のため、マスクをしていない利用者に対し、マスクを着用するよう注意してほしい。」という要望を受け、 利用者の声登録システム に登録し、組織として情報を共有した。	
②状況の把握	●SCが園内を確認したところ、マスク着用率は約20%であった。 ●SCと統括部署で対応を協議するとともに、 利用者の声登録システム で過去の類似事例を検索し参考として検討を開始。他公園では同様の事例がまだ発生していないことがわかった。	
③解決策の検討・調整	●感染症対策のためのマスク着用の是非について、感染症対策や熱中症リスクの観点を含め、SC、グループ統括部署、本社で対応等を協議。 ●その結果、公園利用者に対し、感染症対策のため原則としてマスク着用を決定。ただし、熱中症リスクもあることから、人との十分な距離を保てる場合は、マスクを着用しなくて良いこととした。 ●マスク着用については、賛成派と反対派の両方に理解をしていただけるよう、利用者目線に立ったイラスト入りのメッセージ看板や職員が直接声かけを行うキャンペーンを1か月間行うことに決定した。 ●上記解決策を都に協議し、了承を得た。	 <p>公園でも感染症予防の心がけ マスクをしなね ソーシャルディスタンス 公園の利用を自粛してください 散歩、ジョギングは、マスク着用のうえ、人との距離を十分に保ち、1時間以内に帰園してください</p>
④解決策の提示及び実施	●メッセージ看板の掲示を行うとともに、職員が定期的に園内を巡回し、公園利用者一人ひとりに声かけを行った。	
⑤経過観察・検証	●上記の解決策を実施して1か月ほど経過を確認。マスク着用率は約90%となり、マスク着用が定着してきた。以後、マスク着用、未着用についての利用者からの声はなかった。	
⑥情報の共有・集積及び公表	●実施内容と経過等を都に報告するとともに、 利用者の声登録システム に登録して全社で共有し、今後は前例として他の公園での事例において活用されることで、情報の蓄積・運用を継続的に図っていく。	

(3) 質の高いサービスを提供するための具体的な取組

私たちは公園特性・地域特性・法令等を踏まえた上で、少子高齢化の進展やライフスタイルの多様化等に対応する「首都東京のシンボルパーク」にふさわしい魅力的なプログラムにより、質の高いサービスを継続的・安定的に提供していきます。実施に際しては、地域の様々な団体や専門ノウハウを持つ企業・団体等との連携を重視し、公園から地域に積極的な発信を行うことで、公園と地域の結びつきを強化し、地域と一体となった公園の利用促進と魅力向上を図っていきます。

1 魅力的なイベント・プログラムによる利用促進

新型コロナ感染防止のため、外出を抑制している人々にも公園の魅力を楽しんでいただけるよう、情報発信に取り組みます。一方、身近な憩いの場となる公園をさらに楽しめるよう、新型コロナウイルス感染防止策を徹底しながら、多様なイベント・プログラムを提供します。

●「首都東京のシンボルパーク」としての魅力向上

〈首都東京のシンボルパークとしての景観の演出〉

■「パークビュースポット」でおもてなし【全公園】

公園の顔となる場所を引き続きブラッシュアップ・アピールし、世界から訪れる人々を迎えます。

〈地域のニーズをとらえた公園の魅力向上〉

■2017年代々木公園開園50周年記念イベント開催（済）

■花の名所イベントのレベルアップ【舎人・水元】

一大イベントとなった千本桜祭りで桜の品種紹介やレーガン桜にちなむメニューを展開し桜への理解を深めます。【舎人】
菖蒲祭りでハナショウブの品種や文化を紹介し、ハナショウブの魅力を広くアピールします。【水元】



千本桜祭り(舎人)

〈サクラによるおもてなし「東京 SAKURA プロジェクト」の展開〉

■世界で愛される「サクラ」を発信し公園へ誘う【砧、代々木、善福寺川、

■和田堀、城北中央、光が丘、舎人、水元、府中の森、小金井】

公園内の貴重なサクラ等に関するガイドマップやパンフレット等の作成や、HPでの情報発信等により、公園のサクラの名所を広くアピールし、国内外から訪れる人々のおもてなしを実施します。

■サクラをボランティアと共に守る【小金井】

ヤマザクラなどの保全・再生をボランティアとの連携の下に推進します。

■桜並木や日本庭園を舞台に日本文化に親しむ【府中の森】

琴の演奏や日本舞踊等、日本の伝統文化を感じる「日本文化フェスティバル」等を開催し、海外から訪れる人々を含め来園者に日本文化を発信します。



ボランティア連携の花壇管理(小金井)

〈首都東京のシンボルパークの魅力を磨く取組〉

■大規模花壇で公園を彩る【木場、舎人、小金井】

公園を代表する大規模花壇を、専門家からのアドバイスなどでデザインを工夫し、公園の魅力アップを推進します。

■光をまとう噴水で夜の公園に潤いを【府中の森】

花の広場モニュメント噴水をライトアップで飾り、新たな公園の魅力を創出します。

■「きままにボランティア」【全公園】

気軽にボランティア活動に参加できる機会をつくり、公園に関心を持ち、関わることに喜びを感じていただける人を増やします。

●オリンピック・パラリンピック後を見据えたスポーツ・健康・文化イベント

■企業や地域の団体と連携した健康増進イベントの開催【全公園】

ジョギング・ランニングやテニス教室、健康遊具を使った体力づくりなど、コロナ禍で関心が高まっている地域住民の健康づくりを促進する質の高いスポーツや健康維持増進イベントを開催します。

■パラリンピックの精神を公園施設を通して伝える【代々木、秋留台】

東京都障がい者スポーツ協会等と連携し、陸上競技場を使用して、ユニバーサルスポーツ大会等を実施し、パラリンピックの精神を受け継ぎます。

■ 地域に息づく伝統文化を広めて地域を活性化【木場】

近隣町会等と連携して、木場伝統芸能の角乗体験等の日本の伝統文化を体感できる下町文化フェスティバルを開催し、地域と公園の活性化を図ります。

■ 公園で体を動かしもっと健康に【城北中央】

利用者ニーズを捉えたスポーツ教室を実施し、健康増進に寄与します。

■ コロナ禍でも楽しめる健康増進動画配信【全公園】

若い女性に人気のあるヨガやピラティス等の動画を配信し、コロナ禍でも自宅で楽しめるプログラムを提供すると共に、公園で運動することの魅力を伝え、将来的なユーザーとして公園へ誘致します。

■ 個々の利用でも公園を介して他とつながるアプリコンテンツの活用【全公園】

歩数や消費カロリーが確認でき、ウォーキングを楽しむ個人の参加者同士が記録を確認できるアプリコンテンツを活用し、コロナ禍でも楽しみながら継続的に健康づくりができるようにします。



角乗(木場)

● 自然とのふれあいや生物多様性保全の取組

■ NPO やボランティア等との協働により、都市緑化植物園で五感で感じる植物ガイドツアー等を Web も活用して実施し、都市緑化の普及啓発を図ります。

【木場】

■ NPO やボランティア等と協力し、バードサンクチュアリの保全及び活性化を図るとともに、観察会等を開催して生物多様性の普及啓発を図ります。

【砧、駒沢、代々木、光が丘、舎人、水元、小金井、東村山中央】

■ 池や雑木林等園内の自然資源を活用した、自然ふれあいイベントや環境教育プログラム等を展開します。【和田堀、舎人、武蔵野中央、東大和南、秋留台】

■ 神代植物公園・植物多様性センター等と連携して、アサザやオニバス、カワラケツメイ等希少植物の保護増殖等各公園の特性を生かした生物多様性の保全と推進を図ります。【水元、武蔵野中央、東村山中央】

■ 緑道などで結ばれた公園でセルフガイドシートを作成・配布し、武蔵野の自然環境への興味を喚起します。【小金井、武蔵野中央、東大和南】



昆虫観察会(舎人)

● 多様なライフスタイルに寄与するプログラムの展開

〈教育の素材やフィールドとしての公園プログラム〉

■ 地域で活動する団体等と連携し、公園の自然資源を活用した子ども向けの環境教育を実施し、生物多様性を知るきっかけをつくります。

【東白鬚、東村山中央】

■ 畑作体験や稲作体験、収穫祭を行うことにより、人々が農業体験を楽しみながら食育の大切さを学ぶとともに、世代間交流を推進します。

【木場、水元、秋留台】

■ 「のびのび親子館」における地域の NPO 等と連携したプログラムを拡充実施します。また、夏場の夕刻など開場時間外を使い「夕涼みフェスタ」を開催し、新たな利用促進を図ります。【武蔵野の森】

■ 公園及び周辺に埋もれている貴重な地域資源にスポットを当てたガイドツアー等を実施して、公園と地域を一体的に楽しむ機会を創出します。【小金井】

■ ボランティアや近隣自治体等と連携し、戦争遺跡を有効活用して地域と共に公園から戦争の歴史を子ども達に伝えます。

【武蔵野中央、府中の森、武蔵野の森、東大和南】

■ 地域団体と協力して「パーク・スクール」の体験メニューを増やし、人々の交流機会を増やします。【東白鬚】

■ 再開発前の地域の歴史の紹介や、陽光ザクラの魅力発信、スポーツ体験など新たなメニューを取り入れ、隅田川フェスタを地域の交流イベントとして発展させます。【汐入】

■ 地域で活動する団体との協働による園内及び周辺の見どころや自然、歴史などを紹介するガイドツアーや観察会を実施し、公園を拠点に地域への理解を深めます。【全公園】



栽培体験(秋留台)



のびのび親子館のお話し会
(武蔵野の森)

〈音楽などの文化を楽しむ〉

■ 美術館と連携した野外アート展や多面的活用プロジェクトにより開設した KIBACO と連携したクラフト教室等を開催し、公園の魅力を高めます。【木場、砧、府中の森】

■ 地域と連携したコンサート等を実施し、周辺地域を含めた活性化に寄与します。【砧、駒沢、小金井】

〈子どもの公園遊びの促進〉

- プレイパークや NPO と連携した、広い場所で子どもが思い切り遊べるあそび・わんぱくイベントを実施し、子どもの健全育成をサポートします。【代々木、武蔵野中央、小金井、東村山中央】
- オリジナルの「遊び方カルタ」を活用し、学校や保育園と連携して安全教育を実施します。【汐入】
- ユニバーサルデザイン遊具の紹介などの Web 配信やイベント等を実施し、遊具ひろばの利用と理解を促進します。【砦、府中の森】
- 新設遊具を活用し、地域の団体と連携して子どもの成長に寄与するイベントを新たに実施します。【舎人】
- 戦前、中島飛行機製作所があったことから、子どもと大人と一緒に楽しめる紙ヒコーキイベントを日本紙飛行機協会等と連携して開催し、公園のにぎわいを創出します。【武蔵野中央】

〈公園で花をめぐる〉

- ガイドツアーや品種説明等を通じて、はなしょうぶ園の魅力発信を行います。【水元】
- パラフェスタをボランティア連携等で開催して、パラガイドツアーやパラコンサートなどにぎわいを創出し、パラ園の魅力を広く PR します。【砦、代々木】
- アジサイ園でアジサイ祭りを開催し、アジサイガイドツアーや家族で楽しめる工作教室等を行うことで、アジサイ園が地域の名所となるよう認知度向上を図ります。【篠崎】
- ウメやツツジ等の四季折々の花木の魅力を活かしたイベント開催やセルフガイドプログラムの提供を行います。【小金井】



ハーモニーフェスティバル



掩体壕ガイドツアー
(武蔵野の森)



どろ団子大会(小金井)

〈地域の活性化〉

- 2017 年篠崎公園開園 50 周年記念イベント開催【済】
- 地元名産の小松菜等を扱った「農業祭」と「スポーツ」をコラボさせた「食とスポーツのハーモニーフェスティバル」を発展させ、連携先を拡大してパラスポーツなどを取り入れ、地域の一大イベントに育てます。【篠崎】
- 地域と連携した夜間パトロールを実施し、安全・安心な公園づくりを行います。【城北、武蔵野中央、武蔵野の森】
- 地域や企業等と連携したオタムフェスタを開催し、地域交流をさらに深めます。【城北】
- ボランティアと連携して、グリーンプラザを活用した花と緑をテーマとした「ふれあいフェスティバル」を開催し、公園施設の有効活用とボランティア活動の活性化を図ります。【水元】
- 駒沢大学と連携したキャンドルナイト等のイベントにより、公園と地域の活性化を図ります。【駒沢】
- 企業 CSR や近隣町会、ボランティアの社会貢献の場を提供します。【全公園】
- 学校の総合学習、職場体験、清掃活動などを積極的に受け入れ、社会貢献の場の提供と園内美化向上を図ります。【全公園】

2 安全安心で快適な公園環境の提供

(1) 法令などに則った公園の運営管理

- ・ 私たちは指定管理者として、公園の管理運営に当たり、都市公園法、都立公園条例を始め関係法令等の的確な知識と理解に基づく管理運営を実施します。

(2) 利用者との対話を重視した公園利用の適正化

- ・ 毎日のアメニティ巡回時の挨拶などを通して、利用者顔と顔の見える関係を構築することで、不適正利用の抑止や、園内で発生した課題のスムーズな解決につなげます。
- ・ 不適正な公園利用を発見した場合は、公園の管理ルールや法令等に基づいた説明を丁寧に行うほか、必要に応じて警察等関係団体や東京都と連携しながら、不適正利用の改善や利用マナーの向上を図ります。
- ・ 発生件数の多い課題についてのマナーアップキャンペーンを継続するとともに、新型コロナウイルスに対応した新しい公園利用マナーの園内掲示やホームページでの発信など、普及啓発を推進します。



マスク着用キャンペーン
(汐入)

(3) 専門性を活かした防犯・事故予防体制による安全・安心の実現

- ・ 警察 OB で構成される独自の「安全防犯チーム」が定期的に公園を巡回し、防犯・事故予防の視点から公園内外をきめ細かくチェックすることで、事件・事故や不適正利用を防ぎます。

- ・テロ対策パートナーシップに積極的に参加し、警察、消防などとの情報共有によりテロ対策の視点で日々の巡回等を実施し、公園を安全に利用できる環境を維持します。

(4) 持ち込みイベントやフリーマーケットの適正な指導

- ・持ち込みイベントやフリーマーケットの主催者と事前に綿密な打ち合わせを行い、搬出入車両の安全対策や周辺道路の交通対策、音量対策、清掃の徹底など周辺住民や他の利用者に配慮して実施するよう指導します。
- ・開催中は巡回等を行い、適正に実施されているかを確認し、不適切な利用があった場合は、すぐに改善を指導するとともに、東京都へ報告します。

(5) ホームレステントや屋台への対応

- ・ホームレスのテント等がある公園では、都と連携した特別清掃等を行います。また、日頃からの積極的な声掛け等を通して信頼関係を築いた上で、福祉制度を活用した自立等を粘り強く促し、テント等を減らすことで、公園の環境改善を図ります。
- ・無許可の屋台出店には毅然とした態度で撤去するよう指導します。

(6) 夜間・繁忙期・年末年始の対応

- ・夜間は、2日に1回の警備会社による巡回や、月1回の職員によるパトロール等により、不適正利用の把握・指導や、園路の不点灯の確認を行い、夜間利用の安全確保を図るとともに、事件が発生した場合は、必要に応じて常駐警備の実施や監視カメラ設置等の対策を講じます。
- ・桜花期、GW、夏休みなどの繁忙期は特別巡回を実施し、来園者の安全・安心確保に努めます。
- ・年末年始等は警備員による園内巡回を実施し、事件・事故等を発見した場合は、110番通報をするるとともに緊急連絡網で関係職員に連絡し、適切な対応を行います。

(7) 新型コロナウイルス感染症等への的確な対応

- ・マスク着用やこまめな手洗い・消毒など、都が策定した公園の「新たな利用ルール」に基づき、新型コロナウイルス感染症等を未然に防ぐ公園管理を都と緊密に連携しながら実施し、利用者の安全・安心を確保します。
- ・新型コロナウイルス感染症等の発生時に備え、施設の消毒や閉鎖、職員の応援体制などを定めたBCPを策定し、それに基づく訓練を実施して公園に求められる機能を維持します。

3 利用者サービス向上と利用促進に向けた情報発信の充実

(1) SC等の情報発信・インフォメーション機能の拡充

- ・新型コロナ感染防止のため外出を抑制している人々にも公園の魅力を享受していただけるよう、季節の公園の風景や見ごろの花情報などをSNSを活用し動画等で発信します。
- ・SC周辺を「おもてなし」の観点から、花と緑で美しく修景するとともに、SCを、公園や地域を楽しむ様々な情報が得られる「ウェルカムサービスセンター」とし、各種情報やまち歩きのパフレット配布等、多様な情報発信を充実させます。

(2) ホームページほか多様な媒体を活用した情報発信による利用促進活性化

- ・「公園総合案内パンフレット・マップ(多言語版)」を更新し、公園の歴史・文化・自然資源や公園案内マップや利用ルール等の情報を掲載するほか、HP等でも発信しセルフガイドツールとして活用できるようにします。
- ・公園HPの多言語化を含む充実を図るとともに、ツイッター等のSNSを積極的に活用し、四季折々の花の見ごろ、観察できる生き物、イベント情報等の旬の情報を常時更新し、最新情報を提供します。
- ・公園に生息する動植物、昆虫、野鳥等を詳細に紹介する「発見！公園の生き物図鑑」を活用し、HPにも掲載して、生き物観察のセルフガイドツールとして活用することで子どもたちの豊かな心を育みます。
- ・「電子図鑑機能付き樹名板」を活用して、樹木の魅力を伝えていきます。
- ・近隣施設や商店街、掲示板に公園イベントに関するポスター・チラシを配布する等、様々な公園情報を幅広く発信し、公園の利用促進を図ります。
- ・「公園からまちを周遊マップ」を活用し公園周辺地域を周遊する散策コースや歴史・文化資源等を紹介します。

(3) ユニバーサルデザインに配慮した情報発信

- ・公園協会「サインデザインマニュアル改訂版」により、サイン類の多言語化を進めます。
- ・SC窓口に多言語翻訳機「ポケットク」を配備し、多言語対応を可能にします。【全公園】
- ・SC窓口での、公園協会独自の「英会話フレーズ集」による案内や、「ウェルカム情報ボード」を用いた分かりやすい情報提供等、ユニバーサルデザインに配慮した情報発信を強化します。

(4) インターネットを活用した利便性の向上

- ・バーベキューサイト利用申込のWeb受付を行い、利用者の利便性を向上させます。【和田堀、汐入、光が丘、篠崎、武蔵野中央、府中の森、秋留台】

(4) 公園の魅力向上と利用促進等を図るための自主事業等の提案

1 自主事業の基本事項

新型コロナ禍において人との触れ合いや外出そのものが制限される中で、屋外の広々とした空間である公園で実施されるイベントは、レクリエーションの機会として貴重なものとなっています。私たちは、地域の様々な主体と連携し、地域の特色を活かした自主事業を、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら実施していきます。それにより公園の防災上の役割等を普及啓発し、防災意識の向上を図り、また「首都東京のシンボルパーク」として公園の魅力向上と利用促進を図っていきます。事業の実施にあたっては、これまでのイベント開催で培ってきた連携のノウハウを生かします。自主事業の内容は、公の施設である都市公園に相応しいものとし、実施に際しては、事前に東京都等と十分に協議・調整し、必要な許可等を得た上で実施します。

2 新型コロナウイルス感染防止に配慮した自主事業の実施

新型コロナウイルス感染防止に配慮し、参加者の安全を確保しながら事業を実施するため、次のような点に注意して自主事業を実施します。

事業実施の段階	注 意 事 項
企画段階	<ul style="list-style-type: none"> 公園フェスタなど、過去の実績からみて多数の参加者が見込まれるイベントは、参加者を集中させずに楽しめる内容で実施 参加者の募集方法やブースの配置を工夫し、3密を回避
実施段階	<ul style="list-style-type: none"> 「新型コロナウイルス感染症拡大防止対策<イベント編>」を順守して、参加者の案内・誘導、イベント運営、スタッフの管理を実施 万一、感染者が発生した場合、連絡がとれるよう参加者の連絡先を把握
事業終了後	<ul style="list-style-type: none"> 万一、感染者が発生した場合は、保健所の指示に従い必要な措置をとり、迅速にイベント参加者に周知

3 具体的な取組提案

テーマ	項目	内容	期待される効果
防災を考える	防災フェスタ	<ul style="list-style-type: none"> 警察や消防などの関係機関や、防災関連企業などへも参加を働きかけ、防災に関する展示や体験訓練などを実施する防災フェスタを実施【東白鬚、駒沢、代々木、汐入、光が丘、舎人、水元、武蔵野中央、府中の森、武蔵野の森、小金井、東村山中央、東大和南、秋留台公園】 	<ul style="list-style-type: none"> 防災を考えるきっかけづくり 楽しみながら防災を学ぶ
	防災関連施設連携イベント	<ul style="list-style-type: none"> 防災関連施設と連携して防災ツアーやスタンプラリー等を実施【木場】 	<ul style="list-style-type: none"> 防災関連施設と連携することでより広い防災知識の普及を図る
	防災プログラム	<ul style="list-style-type: none"> 子ども向けの防災ゲーム・ワークショップを実施【全公園】 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民に防災に関心を持ってもらうきっかけづくり

「首都東京のシンボルパーク」としての魅力向上	「和」の文化フェスティバル	<ul style="list-style-type: none"> ●日本の伝統文化を世界の人々に体感してもらうため、野点や和太鼓演奏等の和風イベントや、サツキ、朝顔、菊、盆栽などの江戸園芸展示イベントを実施【木場、駒沢、小金井、東村山中央】 	●日本の伝統文化の発信
	ミニガーデニングショー	<ul style="list-style-type: none"> ●都市緑化の普及のため、東京 2020 大会開催に合わせてハンギングバスケットコンテスト等の「ミニガーデニングショー」を実施【木場、駒沢、代々木、武蔵野中央】 	<ul style="list-style-type: none"> ●開催機運の盛り上げ ●公園の美化推進 ●公園から都市緑化を推進 ●都市緑化の推進
	東京 2020 大会記念イベント	<ul style="list-style-type: none"> ●東京 2020 大会にゆかりのある公園で、ジョギング教室やサッカー教室等オリンピック・パラリンピック機運を盛り上げるスポーツイベントを実施【駒沢、代々木】  <p>オトナのタイムトライアル (代々木)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●開催機運盛り上げ ●公園のにぎわい創出 ●スポーツ振興
	ジャズフェスティバル	<ul style="list-style-type: none"> ●ワシントンハイツ時代を回顧した、国際的ジャズコンサートを実施【代々木】 	●音楽による公園の新しい魅力づくり
東京 2020 大会を契機としたスポーツ・健康イベント	東京 2020 大会関連イベント	<ul style="list-style-type: none"> ●パラスポーツ等の幅広い層が参加できるスポーツイベントを実施【木場】 ●公園が東京 2020 大会の自転車競技のスタート会場となることにちなみ、サイクリイベント等を実施【武蔵野の森】 	<ul style="list-style-type: none"> ●東京 2020 大会機運の盛り上げ ●子どもたちの健全育成への貢献 ●健康維持増進 ●スポーツによる公園活性化 ●公園の新たな魅力創出 ●スポーツを通じた交流の広がり
	スポーツ・健康促進プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ●隅田川テラスを活かし隅田川マラソンを実施【汐入】 ●スケートボード等のマナー向上を目的としたキッズスクールを実施【駒沢】 ●ファミリーパークを活用したクロスカントリーイベントを実施【砧】 ●地域のスポーツ連盟等と連携し、子ども向けスポーツ体験を実施し、子どもの体力づくりを促進【舎人】 ●2019 ラグビーワールドカップを記念し、ラグビーにちなんだ事業を実施【府中の森】 ●障がい者スポーツ協会等と協力し、ユニバーサルスポーツフェスタを実施【武蔵野中央】  <p>テニス教室 (木場)</p>	
自然とのふれあいや生物多様性保全の取組	鳥類等データバンク	<ul style="list-style-type: none"> ●バードサンクチュアリで蓄積したデータを活用した展示等をNPOと連携して実施【光が丘】 	●自然保護意識の啓発
	公園からの贈り物を使用した工作教室	<ul style="list-style-type: none"> ●地域で活動する団体等と協力し、親子連れ等を対象に公園の恵み(ドングリやツルなど)を活用した工作教室を実施【全公園】 	<ul style="list-style-type: none"> ●自然への親しみ ●公園が都市の貴重な緑であることの再発見
	公園フェスタ	<ul style="list-style-type: none"> ●地域のさまざまな団体と連携したお祭りとして公園フェスタを開催【東白鬚、汐入、舎人、光が丘、武蔵野の森、東大和南】 	●地域交流の活性化

多様なライフスタイルに寄与するプログラムの展開	プレーパーク	●親子で楽しめるプレーパークなどの地域交流イベントを実施【光が丘】	●子どもの健全育成 ●公園活性化
	犬のマナーアップ大作戦	●ペット連れの利用者の多い公園でマナーアップ向上のためのしつけ教室等を実施し、良好なマナーを普及【東白鬚、木場、砧、駒沢、代々木、和田堀、汐入、城北中央、光が丘、舎人、水元、篠崎、武蔵野中央、府中の森、武蔵野の森、小金井、東村山中央】	●公園の快適性・安全性の向上
	ローズフェスタ	●バラ講座やコンサートなどバラ園の魅力アップイベントを実施【秋留台】	●公園の活性化
	近隣小学校等と連携した公園ガイドブックの発行	●小学生が公園を取材し、公園のみどころ、魅力を紹介するガイドブックを作成【済】【小金井】	●公園に対する愛着向上 ●公園と地域の小学校等との連携強化
	遺跡等の地域資源の活用	●茂呂・栗原遺跡を活用した、体験型の古代フェスティバルを実施【城北中央】	●子どもたちへの教育の場、素材の提供 ●地域の歴史と公園の結びつきの理解促進による公園への愛着向上
	地域連携イベント	●地域と連携したファーマーズマーケット等の多様なプログラムを取り入れた駒沢ファンタジアを実施【駒沢】 ●アニメを活用した地元連携の強化を目的としたイベントを実施【東村山中央】 ●ミニホースの馬車体験など子どものふれあいの場の提供【府中の森】	●地域や周辺施設との協働による公園活性化 ●公園の新たな魅力発信
	緑のカフェテラス	●売店のない公園で軽食や臨時的飲食スペースを提供し、飲食を楽しみながらくつろげる空間を創出	●公園の新たな魅力発信と活用

4 資金調達方法

自主事業の内容や規模に合わせて、以下の方法により資金調達を行います。

自販機等の収入の活用	企業協賛の獲得	参加料・出展料	サポーター基金
園内の自動販売機等の収益を事業費用等に充当	事業主旨に賛同する企業からの協賛を事業費用に充当	参加者や出展者から徴収する料金を事業費用に充当	サポーター基金を事業の事業費用等に充当

5 収益還元の内容

本グループで実施した自主事業の収益（必要経費を除いた経費）については、防災や首都東京のシンボルパークを実現するための事業等に還元します。

(5) オリンピック・パラリンピック後も見据えた公園の魅力向上の取組

東京 2020 大会開催年には、イベントの実施や花と緑のおもてなしにより開催をお祝いします。開催後は、これまで進めてきた「おもてなし」の取組を、多種多様な人々を公園にお迎えし、快適に利用していただくという視点でブラッシュアップし、「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」という SDGs の目標達成につなげます。

《東京 2020 大会開催年の取組》

	項目	内容	実施公園
美しい景観でおもてなし	公園でおもてなし花壇	人々を華やかに迎える「公園でおもてなし花壇」を、主要園路沿い等に設置	全公園
	ミニガーデニングショー	ハンギングバスケット、コンテナガーデンコンテストなどにより公園を彩る	木場、駒沢、代々木、武蔵野中央
	緑のカーテン	公園主要出入口・SC 周辺等に、緑のカーテンを設置し、緑陰効果を高める	木場、駒沢、代々木、光が丘、武蔵野の森、小金井
	和の涼しさを演出	SC 前や公園出入口等で打ち水により、和の涼しさを演出	木場、砧、駒沢、代々木、汐入、城北中央、光が丘、舎人、府中の森、武蔵野の森
	おもてなし巡回	公園施設及び公園の不適正利用をきめ細かく点検し、問題があれば迅速に対処、適正化を図ることができるよう巡回体制を強化	全公園
イベントで盛り上げる	日本の伝統文化の紹介	朝顔、菊、サツキ、盆栽等の江戸園芸植物等の展示イベントや、野点や和太鼓演奏など日本の伝統文化を感じてもらうイベントを実施	木場、駒沢、代々木、武蔵野の森、小金井、東村山中央
	身近な竹で和文化体験	竹細工教室等の実施により、竹を通し和の文化を体験	全公園
	オリンピック記念イベント	東京 1964 大会の記憶を振り返る記念イベントを実施	駒沢・代々木
	テニスイベント開催	江東区内の有明地区で実施するテニス等の東京 2020 大会競技に関連したデモンストレーションや体験イベント等を実施	木場
情報発信	スポーツ関連特集	HP やメールマガジン等で東京 2020 大会、スポーツ関連特集を実施	全公園
	東京 2020 大会開催への協力	東京都のオリ・パラ競技組織委員会への積極的な協力	代々木・武蔵野の森・東大和南

《東京 2020 大会開催後の取組》

「おもてなし」にかかわる職員の資質向上を継続し、現地での情報提供を充実させることで公園を訪れる方への質の高い「おもてなし」を実現します。

1 都立公園を訪れる人々への「おもてなし」

取組1 おもてなし・窓口サービスの充実

- ① おもてなしの最前線を担う「公園コンシェルジュ」職員の育成を継続し、公園はもとより歴史・文化・観光施設・交通機関等の周辺情報を分かりやすく案内できるようにします。【全公園】
- ② SC 窓口が多言語翻訳機「ポケトーク」を配備し、多言語対応を可能にします。【全公園】
- ③ SC を「ウェルカム SC」として公園や地域を楽しむ情報の提供・配布等を行います。【全公園】
- ④ SC や主要公園出入口周辺等に設置した防災情報も得られる「ウェルカム情報ボード」での各種情報案内の充実を図ります。【全公園】
- ⑤ 「公園からまちへ・周遊マップ」を活用し、公園周辺地域を周遊するのに便利な散策コースや歴史・文化資源等を紹介します。【全公園】
- ⑥ 新設されたデジタルサイネージを活用し、季節の公園の見所や防災情報等を発信します。【和田堀・砧公園を除く全公園】

取組2 公園で「花と緑のおもてなし」

- ① 協働による花壇づくりを推進し、花によるおもてなしの充実を図ります。【全公園】
- ② 花を通して地域の結びつきを深めることを目的に、ハンギングバスケット、コンテナガーデンコンテスト等を中心とした「ミニガーデニングショー」を継続します。【武蔵野中央】
- ③ 江戸東京の桜をテーマとする「東京 SAKURA プロジェクト」を推進し、充実しつつある各公園の桜の名所の魅力アップを継続し、公園からの情報発信を促進します。【砧、代々木、善福寺川緑地、和田堀、城北中央、光が丘、舎人、水元、府中の森、小金井】



ボランティア花壇(舎人)

取組3 公園から世界への情報発信(多言語)の強化

- ① ホームページの多言語化を継続し、スマートフォン・タブレット等携帯情報端末で、詳細な公園情報を発信・提供します。【全公園】
- ② 公園情報をいつでもどこでも手軽に入手できる都立公園多言語アプリを広く紹介し、スマートフォン、ipad 等を用いたセルフガイドや外国人を含めた公園案内等に活用します。【全公園】
- ③ 「サインデザインマニュアル(多言語改訂版)」に基づき、公園サイン等の多言語化を図るとともに、防災公園情報も表示する等、改善・充実を図ります。【全公園】
- ④ 「公園総合案内パンフレット・マップ(多言語版)」を更新し、公園の歴史・文化・自然資源や公園案内マップや利用ルール等の情報を掲載するほか、HP 等でも発信しセルフガイドツールとして活用できるようにします。【全公園】



TOKYO PARKS PLAY
(都立公園多言語アプリ)

2 すべての人々への「おもいやり」の心を大切に

すべての人々を平等にお迎えし、防災対策やバリアフリー・ユニバーサルデザインの充実を図ることで、安全・安心、快適に公園を楽しんでいただけます。

取組4 防災対策の強化

- ① 外国人向けの防災対策として、防災掲示板や防災リーフレット等の多言語化を図ります。【全公園】
- ② 発電設備も活用して防災関連施設を的確に運用し、避難場所、広域防災拠点機能を発揮できる体制を確保します。【全公園】

取組5 公園美化、安全・安心の強化

- ① 芝生・草地広場、トイレ、ベンチ等の公園施設について、草刈・清掃の工夫、特別洗浄、補修等により、特に良好な状態に保ち、おもてなし水準を向上します。【全公園】
- ② スポーツ施設利用者等へ向けて、暑さ指数（WBGT）の来園者向け表示を実施します。【全公園】
- ③ 新型コロナウイルス感染症対策として、スプレー式除菌剤・石鹼や飛沫防止シートの設置、更衣室等の消毒や換気、ソーシャルディスタンスの表示、手洗い場の増設等を行い、衛生管理を徹底します。【全公園】

取組6 バリアフリー・ユニバーサルデザインの充実

- ① トイレ等便益施設の周辺や主要園路のバリアフリー対応の段差解消等に向けた改修と、車椅子の貸出対応を充実させます。【全公園】



便器周りの樹脂モルタル補修により
目地をなくし、臭気定着を防ぐ(駒沢)

3 東京 2020 大会の精神を未来に

東京 2020 大会をきっかけにスポーツへの関心が高まる機会をとらえ、身近な公園でスポーツが体験できる機会を提供し人々の健康づくりを後押しします。また、五輪に関連した公園で五輪の精神を未来に引き継ぎます。

取組7 身近な公園でのスポーツ活動の推進

- ① 陸上競技場や園路を使用して、ジョギング・ウォーキング教室等やマラソン大会を実施します。
【駒沢、代々木、汐入、城北中央、】
- ② 企業や地域の団体等と連携し、野球、サッカー、テニスなどの質の高いスポーツ教室やコロナ禍で関心が高まっている健康づくり講座等を実施します。【全公園】
- ③ 東京都障がい者スポーツ協会等の障害者団体と連携したユニバーサルスポーツ大会を開催します。
【武蔵野中央、秋留台】
- ④ 歩数や消費カロリーが確認でき、ウォーキングを楽しむ個人の参加者同士が記録を確認できるアプリコンテンツを活用し、コロナ禍でも楽しみながら継続的に健康づくりができるようにします。【全公園】



ランニングクリニック (駒沢)



ユニバーサルスポーツ祭り(秋留台)

取組8. 東京 2020 大会の感動を未来に

- ① 東京 2020 大会の練習会場となる代々木公園の陸上競技場などでランニング教室やオリンピック種目を含むスポーツイベントを実施してスポーツの普及や健康づくりの推進を継続していきます。【代々木】
- ② 東京 2020 大会自転車競技会場となるため、サイクルイベントや、地域の方々と芝生広場の愛称を決めるなどし、大会の記憶を未来につないでいきます。【武蔵野の森】



オトナのタイムトライアル (代々木)

4 施設維持管理計画

(1) 防災関連施設の維持管理

1 防災関連施設の維持管理基本方針

基本方針

- (1) 防災関連施設を発災時に有効に機能させるため、点検により常に施設の異常の有無等を確認し、異常があった場合には直ちに補修等を講じ、防災関連施設の機能を維持します。
- (2) 防災関連施設使用訓練の実施により SC 職員、公園への参集者とともに使用方法を熟知し、かつ発災時に共助の担い手となりうる地域住民の方にも使用方法を周知します。

具体的取組方針

(1) 「防災関連施設管理運用マニュアル」の更新

防災関連施設の整備や更新に合わせて「防災施設管理運用マニュアル」を更新し、それに基づく維持管理等を的確に行います。

(2) 防災関連施設の点検

① アメニティ巡回による点検

毎日の巡回において、防災関連施設を目視でチェックします。

② 定期点検

防災関連施設に精通した防災推進リーダーの指導の下、SC 職員が、施設の動作確認等を含めた定期点検を昼間・夜間毎月 1 回実施し、異常・劣化の発見に努めます。

③ 共同点検

公園間の点検レベルを標準化し、かつ仕様の異なる防災施設について各公園の職員が熟知するため、複数公園の職員が共同で実施する共同点検を年 2 回実施します。施設の修復が直営で可能な場合は、点検と同時に修復作業も実施します。

④ 法定点検

専門家（有資格者）による法定点検を定期的に行います。



防災施設共同点検

(3) 防災関連施設の維持管理

各防災関連施設の維持管理を以下の視点で行い、異常が発見された場合は最優先で補修を行います。

施設名	管理・確認の視点
公園出入口	<ul style="list-style-type: none">・大型車両の通行を想定し車両の回転半径も含め支障物を除去する。・すべての車止のさび・目詰まりなどを除去する。
園路	<ul style="list-style-type: none">・緊急車両の動線となる園路の舗装の劣化状況に注意し、路面の補修、不陸補正を行う。・大型緊急車両の通行に配慮した樹木管理等を行う。
入口表示灯 園内誘導灯 ソーラー照明灯	<ul style="list-style-type: none">・表示面の劣化、汚れを確認し表示の不備、不点灯等は直ちに補修する。・蓄電池の劣化や盗難、破損等を確認する。・支柱・基礎部分の劣化を発見した場合は直ちに必要な措置をとる。・ソーラー発電パネル周辺の支障枝等を除去する。
防災トイレ	<ul style="list-style-type: none">・土砂や植物等でマンホールが埋没しないよう的確に清掃・草刈を実施する。・マンホール開口部周辺は事故につながる恐れがあるため蓋の破損、凸凹等に注意する。・ピット内の土砂や雨水は取り除く。・トイレテントの数量、破損等を確認する。所有者が区市の場合は、区市と連携して実施する。
揚水ポンプ	<ul style="list-style-type: none">・可動部分の劣化等に注意し、劣化等が発見した場合は直ちに必要な措置をとる。
かまどベンチ	<ul style="list-style-type: none">・常に組立できる状態にするため部品の固着を防ぎ摩耗したボルトは交換する。・薪や調理器具等、使用時に必要な備品を可能な範囲でストックしておく。
防災パーゴラ	<ul style="list-style-type: none">・支柱や基礎部分の劣化を発見した場合は直ちに必要な措置をとる。
ヘリポート	<ul style="list-style-type: none">・ヘリの離発着に配慮した植栽管理を行う。
発電機	<ul style="list-style-type: none">・動作確認を行い、燃料を安全にストックする。
都機動班倉庫	<ul style="list-style-type: none">・外観の異常の有無を確認する。・年 1 回内部の備品を点検し内容を東京都に報告する。

非常用発電設備	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な試験運転、運転状態等の確認を行う。 ・本体及び固定部分の変形、錆等の有無に関して点検を実施する。
デジタルサイネージ	<ul style="list-style-type: none"> ・モニターの動作確認、劣化状況、テレビ放送受信の状態を点検する。

他の設置者による防災関連施設の管理に当たっては、次のような点に配慮します。

施設名	管理の視点
応急給水槽	<ul style="list-style-type: none"> ・定期点検時に外観の異常の有無を確認する。 ・発災時の応急給水スペースを確保する。 ・区市や水道局の点検、訓練に参加し、給水手順等を理解しておく。
消火栓 防火水槽	<ul style="list-style-type: none"> ・定期点検時に外観や施設表示看板の異常の有無を確認する。 ・マンホール蓋が土砂等で覆われないようにする。

(4) 使用訓練の実施

使用訓練による機能の維持

①使用訓練による施設不備の発見

定期的な使用訓練で施設を稼働させることで、日常点検だけでは発見できない施設の不備を見出し、補修等迅速に対応します。

②対応力向上訓練の実施

発災時、的確に防災関連施設を稼働できるよう、SC職員のみならず、参集職員、公園内に勤務する営業業務・公益業務に従事する協会職員、受託業者も防災関連施設の使用法に慣れるよう、定期的に訓練を実施します。



防災対応力向上訓練

自治会等と連携した使用訓練の実施

①共助訓練の実施

発災時には、公園管理者だけで全ての防災関連施設を稼働させることは困難なため、平常時から自治会等と連携した防災トイレやかまどベンチ等の防災関連施設の設営・稼働訓練等を実施し、地域住民の共助により施設の稼働に協力を得られるようにします。

②使用方法説明看板の設置

防災トイレやかまどベンチ等、公園管理者以外も設営に協力することが想定される施設については、発災時に誰でも使用方法がわかるよう、公園施設周辺に使用方法を説明するサイン等を設置します。



自治会と連携した使用訓練

③鍵等の貸与

防災トイレのテントを保管している倉庫の鍵等を自治会等に貸与し、発災時に管理者が不在でも防災関連施設の使用が可能な準備を講じます。

(5) 防災関連施設の改良

防災トイレテント等の備品の新規購入や更新などを検討している地元の区市に対しては、日頃の防災訓練等の経験を活かし、防災関連施設をより利用しやすい仕様に変更を促すような協議や提案等を行います。

(6) 新たに整備が予定されている防災関連施設への対応

発電設備等、新たに公園に整備される予定の防災関連施設については、施設の仕様と求められる管理内容を十分に理解し、防災施設管理運用マニュアルに明示し、関係職員等に周知します。また、発災時の使用方法等を把握するための防災訓練を計画的に実施します。

2 その他の公園施設の日常管理における取組

基本方針

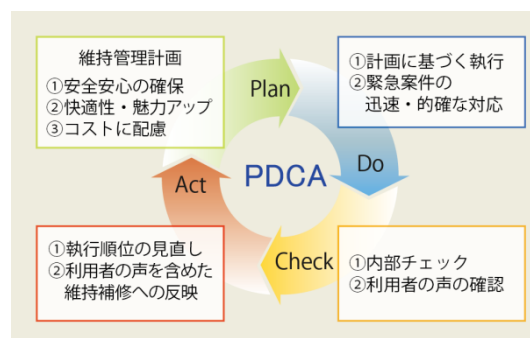
- (1) 公園を安全・安心、快適に利用していただくため、計画的かつ公園の機能を十分に発揮させる維持管理に公園協会の総力を挙げて取り組みます。
- (2) 都市の風格を高め、公園をレガシーとして継承するため、「首都東京のシンボルパーク」の顔としてふさわしい「パークビュー」を選定し、レガシーとして未来に伝えていきます。
- (3) 人と生き物が共生できる環境づくりに向けて、生物多様性保全に配慮した上質な維持管理を実施します。
- (4) 公園の魅力と価値を更に高めるために、ボランティアや専門企業等多様な主体と連携し、管理を通じて公園や地域を元気にする、きめ細やかで効率的な維持管理を行います。
- (5) 気象災害等の発生時には、本社組織と各公園及び協力企業が一体となった連絡体制を敷き、東京都や警察・消防等とも連絡を密にしながら、迅速かつ的確に対応します。

具体的取組方針

(1) 安全・安心・快適性を常に追求する計画的な維持管理

① PDCA サイクルに基づく計画的な維持管理

- ・利用者へ安全・安心、快適な公園利用を提供するため、PDCA サイクルに基づく計画的な維持管理を、公園利用者の声も反映させながら実施します。
- ・遊具の消耗部材など予防保全的観点から施設の状況をきめ細かく確認し、的確な維持補修を行うことにより長寿命化を図り、ライフサイクルコストの低減化に努めます。
- ・公園施設が持つ様々な機能を最大限に発揮できるよう、遊具点検等のマニュアルに基づき点検を行い各分野の専門技術者が施設に応じた維持補修を的確に実施します。
- ・ベンチ、野外卓、サイン、ゴミ箱など利用頻度の高い施設については、劣化の具合や利用状況などを見ながら迅速な施設維持管理を行い、安全・快適な施設を常に維持していきます。



PDCA サイクルに基づく計画的な維持管理

② 「公園クイックナビ」を活用したリアルタイムな維持管理

- ・都の「レスナビ」と併せて、公園施設の破損や不具合、災害時の被害状況等を瞬時に取得・集約するシステムにより、迅速・的確な判断で修繕や応急措置等を講じます。

③ 維持管理作業の「見える化」の推進

- ・トイレ清掃の実施状況の表示や景観づくり、安全安心の確保等、維持管理作業の目的や効果を掲示することで、維持管理作業の「見える化」を推進し、利用者の視点に立った明るく爽やかな公園管理を実現します。

④ 効果的・効率的な「近隣共同作業」の推進

- ・技能に長けた造園技能専門職員等による「技能向上班」が各公園に出向き、「近隣共同作業」を実施することで、効果的・効率的な管理を推進するとともに、技能伝承を行います。
- ・スケールメリットを活かし、必要に応じてグループの維持管理職員を一同に集結させた「全体共同作業」を実施することで、短期間での刈込作業など、更に効果的・効率的な維持管理作業を行います。

(2) 公園をレガシーとして将来に継承する上質な維持管理

① 「首都東京のシンボルパーク」の顔となる「パークビュー」等の景観形成を意識した維持管理

- ・公園の景観を代表する「パークビュースポット」を選定し、それらを磨き、未来にレガシーとして伝える植栽管理・施設管理等を実施するとともに、その魅力を広く発信していきます。

② 生物多様性の保全

- ・独自の「生物多様性保全の公園別計画」の作成や見直しにより、ゾーニングに応じて育成等を図るべき生物相を定め、計画的な植生管理を進め、モニタリング調査により評価し、フィードバックすることで、「首都東京のシンボルパーク」として公園の豊かな自然や生きものを守り育てる計画的な維持管理を行います。
- ・生物多様性保全戦略を進めるに当たっては、東京都事業の進捗に合わせた多様な生物の生息環境の創出や維持管理を行うとともに、生物多様性の普及啓発の取組をさらに拡大していきます。
- ・水元公園では、ボランティアと連携し水辺のさとエリアの管理運営方針を改訂し、また、水辺のいきもの館で水元の自然を紹介する企画展を開催します。

- ・ 神代植物公園・植物多様性センターで培った科学的知見や技術、協会が持つ調査・研究・保全技術、大学や専門家との強固なパイプを活用して、希少種保全等の生物多様性保全に取り組みます。
- ・ バードサンクチュアリは、生物多様性保全等に係る基本方針等を作成し、多様な主体との連携を推進し、生物多様性保全や良好な観察環境の確保等を意識した、計画的な管理を更に推進します。
- ・ 武蔵野の面影を残す雑木林は、野鳥や昆虫の生物の生息環境を確保する等、生きもの保全とともに、生きものが身近に見られ、体感できる維持管理を行います。
- ・ 広場の一角を刈り残して草地を確保する「昆虫原っぱ」の創出など、都心部でも生きものとふれあえる生物生息空間を確保していきます。

③池の水質浄化・環境改善

- ・ 協会内に「池の水質浄化水辺に関するワーキンググループ」等を設置し、水質浄化に係る先進事例の調査や新技術に関する情報収集等を行い、公園ごとの施設特性に合わせた具体的な水質浄化対策を継続的に実施します。
- ・ 水質悪化の要因を分析し、都の指導の下に水質改善・環境改善につなげる取組の推進や、二ホンイシガメ等の希少種保護のための、外来生物防除の取組を進めます。

④地球環境に配慮した維持管理

- ・ 植込地管理や高木剪定で発生した枝葉は、緑のリサイクルとして積極的にチップ化や堆肥化を推進し、加えて再資源化（パルプ化等）にも取り組みます。
- ・ 旧型エアコンの更新によるCO2削減、シャワーヘッドの交換等による省エネ化に取り組みとともに、環境負荷の少ない材料や機材等の導入を進め、地球環境に配慮した維持管理を推進します。



⑤ユニバーサルデザインに配慮した維持管理

- ・ 誰もがわかりやすく、公園内の美観に配慮した独自の「サインマニュアル」や「東京都福祉のまちづくり推進計画」等に基づき、ユニバーサルデザインの視点による多言語対応サイン等の充実・改善や、車いすルート明示など、誰もが安心して便利に利用できる案内対応をさらに充実します。
- ・ 公園施設や舗装の段差や不陸の解消等、バリアフリーを重視した的確な施設管理、植栽管理を行います。
- ・ 高齢者や幼児等の利用に配慮し、園内各所に夏季の日陰、緑陰の確保などを行います。

(3) 公園管理のノウハウや新技術を活かした効果的な維持管理の推進

①スポーツによる健康維持増進のための運動施設の維持管理

- ・ テニスコートや野球場等のスポーツ施設については、長年にわたる管理ノウハウを活かし適切な維持管理を行うとともに、施設の更なる快適性の向上と長寿命化を図ります。
- ・ 運動施設の利用前後の状況チェックと整備、マニュアルに基づく定期的な整備、職員の整備技術向上のための研修等の実施により、常に良好なコンディションの運動施設を提供します。

②新技術の導入等による効果的な維持管理

- ・ 公園の施設維持に関わる新たな技術等の活用を検討することを目的に協会内に設置された「新技術活用判定会議」を継続実施し、新しく開発された工法・材料等を状況に応じて有効活用することで、公園施設の安全性・機能・魅力を高めていきます。
- ・ ロボット芝刈り機等の新技術の導入により、毎日草刈りを実施することで芝高を抑え、継続的に快適な環境を利用者へ提供します。

3 緊急時における迅速・円滑な対応

地元の協会社や特約店とともに365日24時間緊急対応が可能な体制を敷き、自然災害を含めた緊急時等を含め、いかなる時間の施設の不具合等にも対応します。

①事故や故障等への対応

- ・ 直営作業と合わせて専門性を有した様々な専門的企業と連携し、緊急時には迅速・円滑な対応を図ります。
- ・ 複数の造園、建築、設備等企業と年間を通じて発生する緊急修繕等に、迅速かつ的確に対応する特約店契約を結び、365日24時間緊急対応が可能な体制を敷き、的確に対処します。

②地震や大雨等、自然災害時の対応（4(2)、5(2)参照）

- ・ 公園協作成「気象災害対策計画書」「震災対応マニュアル」等のマニュアル類を体系化し、配備・活用するとともに必要に応じて逐次改訂していきます。

- ・集中豪雨等の自然災害に対しては、過去の被害履歴・箇所等を分析して「公園別ハザードマップ」に反映し、以前より継続して取り組んできた樹林地の計画的な樹木剪定・伐採等をさらに進めるとともに、側溝・排水清掃、事前点検、施設補強や土嚢積み等、災害防止対策を的確に行いながら、警報等に応じた警戒宿直態勢を敷きます。
- ・地震災害に対しては、「震災時職員参集計画」に基づく参集訓練をはじめ、防災訓練の積み重ねにより、都・地元市区との強力な連携・協力体制の下、的確な参集と迅速な対応に組織を挙げて取り組みます。

(2) 事故及び自然災害、感染症等を未然に防ぐための安全対策、発生時の対応

1 基本的考え方 ～平常時から事故や災害に備え、発生時には迅速かつ的確に対応～

安全を確保し事故ゼロを目指すため、独自の「安全対策推進委員会」により、年間計画に基づく安全管理を徹底し事故等の未然防止を図ります。

- (1) 公園施設の日常・定期点検による危険要因の除去、及び「公園維持管理のための安全管理マニュアル」に基づく安全管理等を徹底し、安全講習の充実等、利用者の安全確保はもとより、作業者の事故防止を図ります。
- (2) 大雨や大雪等の気象災害に備え、「気象災害対策計画」等に基づき、危険箇所の事前点検や被害防止措置、土嚢積みの訓練等を十分に行います。
- (3) 新型コロナウイルスやデング熱等の感染症の発生予防を図るため、常に新しい知見を収集し環境の整備や点検等を的確に行います。
- (4) 事故や災害、感染症等の発生時には、本社と現場及び協力業者と一体の危機管理体制を敷き、都や関係機関と連携して迅速かつ的確な対応を行います。

2 事故や災害を未然に防ぐための具体的安全対策

(1) 危険箇所や要因を早期に発見・対処する恒常的な取組

アメニティ巡回等、安全確保のための日常点検等の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・園路、樹木、遊具、トイレほか公園施設を職員と研修等を受講した警備会社職員が始業時と終業時に安全点検して、問題に応じて迅速・的確に対処することで常に安全・安心な公園利用を確保する。 ・夏期や年末年始の巡回警備、花見時期やイベント時等の繁忙期には重点警備を実施する。
樹木点検と樹木診断	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を受けた樹木点検員を各公園に配し、定期点検及び台風時等緊急点検を実施 ・枯れ枝重点点検エリア設定による落枝点検に加え、落枝の多いケヤキについては毎木調査でのリスト化により可視化し、定期点検に活用することで事故を防止 ・腐朽等の異常が認められる場合は協会所属の樹木医が樹木診断を行い、倒木等を未然に防止。必要に応じて都民へ公開診断を行い、分かりやすく状況を説明 ・研修を受講した職員がマツノザイセンチュウ、クビアカツヤカミキリ、カシノナガキクイムシ等の病害虫の早期被害発見に努め、伐採処理や防除措置を徹底し、樹木への被害の拡大を防止するとともに倒木等による事故を未然に防止
施設の安全点検	<ul style="list-style-type: none"> ・電気設備等は法定点検を着実に実施。遊具については職員による点検と専門業者による精密点検を行い点検・措置履歴を記録保存。危険箇所は即時使用中止をするとともに修理等適切な対応を行う。 ・水遊び施設の利用期間中の事故を防止するため点検や委託による常時監視を継続

(2) 公園利用者及び作業者の安全確保

- ①利用領域と作業領域（立入禁止区域）を明確に分け、作業時の利用者の安全確保を徹底します。
- ②委託業者への安全講習会や職員による安全パトロールを実施し、委託業者を含めて安全管理体制を更に強化します。
- ③安全管理マニュアルに基づく2週間作業予定表作成とKYミーティングを実施し作業時の安全を確保します。
- ④現場作業のヒヤリハット事例集を作成することでリスクアセスメントを行い事故を未然に防止します。

(3) 気象災害に対する事前の備え

台風・大雨・猛暑等に対する緊急配備体制の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・「気象災害対策計画書」に基づき、台風や警報発令時には災害対策本部を速やかに設置 ・過去の公園の気象被害を分析し、計画的な樹林地管理や側溝・排水清掃を継続して実施 ・「大雨、風害」と「雪害」の履歴を示す「公園別ハザードマップ」を活かし、台風接近時には事前に巡回点検や側溝清掃を、雪害想定時には危険枝除去等を行い災害を未然に防止 ・大雨等による冠水を想定し、事前訓練や、被害履歴のある公園では事前水防対策を実施 ・来園者への注意喚起やイベント中止の基準などを設けて、猛暑日の熱中症対策を強化
民間気象会社と連携した気象情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> ・気象情報会社との契約により、集中豪雨、暴風等異常気象情報を警報発令前から事前収集、気象警報発令時は関係者へ情報が瞬時に自動送信され、被害予防措置等を的確に実施 ・園内放送設備や巡回を通じ、落雷の危険等について利用者に注意喚起

気象災害を想定した特約店との協定	<ul style="list-style-type: none"> ・公園ごとに対応する特約店を定め、公園の状況等を事前に把握 ・被害が想定される場合、特約店に事前に対応準備等を指示し、気象災害発生時等に備える。
------------------	---

(4) 感染症などに対する事前の備え

- ①新型コロナウイルス感染症に備え、国や東京都の情報を着実に把握し、受付窓口への飛沫防止シートの設置、更衣室等の消毒や換気、ソーシャルディスタンスの表示、手洗い場の増設等、新たな生活様式に対応した維持管理を行うほか、策定したBCPをもとに発生時を想定した訓練等を実施します。
- ②蚊媒介感染症（デング熱等）の発生に備え、国立感染症研究所等の情報を着実に把握するほか、都とも連携を密にし、蚊の発生する側溝・集水桝の清掃、藪の除去等抑制対策、資材や薬剤等の準備、薬剤散布業者の事前体制確保等を行います。特に、発生の恐れのある公園では、都の指示に基づき蚊の発生抑制剤の散布を行います。
- ③病原性大腸菌等に備え、SC入口や便所等にスプレー式除菌剤や石鹼等の衛生用品を置き来園者に注意喚起を行います。
- ④鳥インフルエンザ等、他の生物系ハザード要素についても常に最新情報の収集に努め、職員へ周知します。

3 事故や被害発生時の対応

(1) 事故発生時の対応

けが人の救助と事故発生現場の早急な安全措置	<ul style="list-style-type: none"> ・けが人発生の際は、けが人の応急処置・救助を最優先に行う。 ・再発防止のため、事故現場への立入禁止や使用禁止措置など、早急な安全措置を実施
関係者・統括組織・関係機関への連絡	<ul style="list-style-type: none"> ・けが人の身元、連絡先を確認し家族等に連絡 ・緊急連絡網により協会本社及び都等関係機関へ事故の第一報を速やかに報告する。
事故原因の究明と再発防止策の検討実施	<ul style="list-style-type: none"> ・現場検証や目撃者からのヒアリング等により組織を上げて事故の発生原因の究明を行う。 ・本社組織（安全対策推進委員会）で再発防止策を検討し速やかに対応する。
情報共有と再発防止策の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・事故及び再発防止策について組織内で情報共有を行い、類似事故の注意喚起を図る等、徹底を図る。

(2) 気象災害発生時の対応

早期被害状況の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・都の「レスナビ」に併せ、被害状況を瞬時に取得するシステムを活用し、より迅速に災害情報（位置や被災状況）を把握し、的確な状況判断と対策の実施に役立てる。
台風、大雨、大雪等による災害対応	<ul style="list-style-type: none"> ・災害対策本部を中心に本社と現場が一体となり、組織を挙げた人員の集中投入や特約店による迅速な応急措置と復旧を行う。また、都職員と協議し、その後の本格復旧に向けて積極的に取り組む。

(3) 感染症発生時の対応

- ① 新型コロナウイルス感染症が発生した場合は、東京都と連携し、BCPに即した施設の消毒や状況に応じた利用中止、利用者への広報・注意喚起等を、組織を上げて迅速かつ的確に実施します。
- ② デング熱等の蚊媒介感染症に対しては、都と連携し、側溝や植込の消毒、状況に応じた施設閉鎖、利用者への広報・注意喚起等を、組織を上げて迅速かつ的確に実施します。
- ③ 鳥インフルエンザ、コイヘルペス等に対しては東京都マニュアルに基づき都と連携し的確に対応します。



デング熱対応（代々木）

4 その他の安全確保の取組

- (1) 子ども利用エリアでは、有刺植物等の撤去・移植等、子ども達の安全確保に努めます。
- (2) 利用者の安全・安心確保の視点に立ち、死角解消のため園路沿いで株物や中低木の刈込み(強剪定)、移植を行うほか、夜間照度を確保するため、公園灯周りの支障枝除去を定期的実施します。
- (3) 公園施設の破壊や盗難行為に対しては、迅速な被害報告と復旧を行うとともに、再発防止策として地元警察へのパトロール協力依頼や、夜間警備の強化、必要に応じて監視カメラの設置などを実施します。
- (4) 警察 OB からの専門組織（安全防犯チーム）が、各公園を巡回し、専門家の目線で安全性や防犯性をチェックするとともに、課題があれば地元警察とも連携し、担当部署が速やかに是正します。
- (5) 地元自治会等、地域と連携した防犯パトロールの実施等、地域ぐるみで安全・安心を確保していきます。
- (6) チャドクガやスズメバチ等の害虫駆除や、抱卵時に利用者へ危害を加えるカラスには巣落とし作業を行い、公園内の安全確保に努めます。

(3) 要望やオリンピック・パラリンピック後も見据えた施設補修、施設改良への取組

1 基本的考え方

誰もが安全・安心・快適に利用できる公園に向けた優先順位に基づく効果的な補修・改良

施設改善要望に対し、現地確認、関連情報の収集の上、安全・安心の確保の視点、利用者ニーズ、東京2020大会後も見据えたおもてなしの観点を考慮して、優先度を仕分け、都との役割分担を図った上で、効果的な補修・改良を図ります。その際、PDCAサイクルの理念に則り、的確に取り組みます。

2 具体的な対応と提案

(1) 施設補修等要望への対応姿勢と提案

① 優先順位をつけた計画的な維持補修

- ・ 現地を確認し、要望内容等を十分に確認した上で、上記の考え方を踏まえ、対応方法と優先順位を検討し、緊急性の高いものから速やかに対応します。特に、園路等の段差や凹凸等の解消や、見通しの改善等、安全確保への取組を最優先で実施します。状況に応じて次年度以降の改修計画等に反映させます。
- ・ 遊具については計画的な補修を行い、不具合があれば使用中止を含め迅速かつ的確に対処し、C判定（※）までの遊具は速やかに補修を行うとともに、B判定であっても耐用年数を過ぎた遊具については積極的に補修等の対応をします。
（※）日本公園施設業協会の判定による。
- ・ 定期点検等の実績で得られた情報を的確に東京都に伝え、都で行うべき規模等の改修案件（橋等の土木構造物や公園灯改修等）についても、都と協議の上、より望ましい対応に向けた提案や協力を積極的に行います。

② 施設状況情報の整理と蓄積、都への情報提供

- ・ 公園内のトイレ等建築物や電気・給排水設備等について、都とも協力して位置や補修履歴情報を集約し、既存情報と併せて順次ハンディマップ化することで、より迅速かつ的確な補修に活かします。
- ・ これらの情報を都に提供するとともに改修提案を行い、都との役割分担に応じた効果的な改修につなげます。

(2) 施設改良及び改修要望への対応姿勢と提案

① 利用者ニーズを捉えた的確な施設改善

- ・ 施設ごとの利用特性や利用者ニーズを勘案し、都と協議の上、緊急性や公共性の観点から優先順位を判断します。
- ・ 施設改良等の実施に際しては、利用者等からの要望の有無に関わらず、ユニバーサルデザインの視点、利用者に対する安全性や快適性、維持管理の容易さ等を十分に考慮した内容とします。
- ・ 公園の魅力アップ、サービス向上につながる日陰・緑陰設置等の改良については、他公園での展開を検討・実施します。
- ・ 東京都の新規整備・改修工事等に対しては、利用実態や維持管理面を踏まえた提案を行い、より魅力のある公園づくりにつながるよう積極的に協力します。

(3) 東京2020大会後も見据えたおもてなしの施設改良

① 思いやり対応

- ・ 東京2020大会後も見据え、ユニバーサルデザインの視点で公園施設を点検し、東京都との役割分担のもと、計画的・積極的な改良を図ります。
- ・ バリアフリー対応園路ルートを現地サイン及びリーフレットに表示しHPでも確認可能とします。
- ・ 年間経費予測のノウハウを活かし、年度当初に補修修繕計画を立て計画的に資金を投入します。

②おもてなし対応

- 各公園にオリピックレガシーとして、「パークビュースポット」を選定します（別表参照）。
- 現在行われているボランティアによる花壇づくりを、おもてなしに相応しく充実させていきます。
- 江戸東京の桜でおもてなしする「東京 SAKURA プロジェクト」として、世界から訪れる人々をおもてなしするため、日本の春を象徴する桜にスポットをあて、「桜名所」の充実と利活用の促進を図っていきます。【砧、代々木、善福寺川、和田堀、城北中央、光が丘、舎人、水元、府中の森、小金井】
 - 各公園の桜の生育状況等を調査・把握し、樹勢回復や健全育成に必要な措置を講じ桜の開花の質を向上させるとともに、衰退・老齢木については随時更新を図ります。
 - 江戸時代から伝わる貴重な桜の品種群を保存し、未来に継承していくため、これらの後継苗木の育成を行い、衰退樹の更新や新たな植栽に活用していきます。
 - 桜に関するガイドマップやパンフレットの作成、HP での魅力的な紹介、関連イベントの開催などによる普及啓発に努め、公園の桜名所等の知名度を高め利用促進を図っていきます。
- 地域資産としても貴重な巨樹、名木等の保全と継承
 - 公園内に見られる巨樹や希少樹木、所縁のある名木を抽出し、樹木点検や樹木診断を行い、必要に応じて施肥や支柱設置等の保全育成措置を施すことで、将来に渡り良好な姿で継承します。
 - 主な巨樹・名木等を紹介する印刷物等を作成配布し、来園者への普及啓発に努めます。

(別表)「パークビュースポット」

	パークビュースポット	維持管理方法	主なパークビュースポット写真	
東白鬚	<ul style="list-style-type: none"> シンボルタワーまとい 団地を臨む景観 	<ul style="list-style-type: none"> 都防災拠点計画の第一号として建てられた公園のシンボル 公園から臨む約 1 キロにわたって連なる防災団地の景観 	<ul style="list-style-type: none"> 高圧洗浄等により美観を維持するとともに、まとい周辺の適切な樹木・花壇管理を実施 高木剪定等により公園から団地を望む視界を確保 	
木場	<ul style="list-style-type: none"> 木場公園大橋と大花壇 	<ul style="list-style-type: none"> 公園の中央に位置する公園のシンボル・木場公園大橋のダイナミックな造形と、花が織りなす美しい景観 	<ul style="list-style-type: none"> 噴水の品質管理、ボランティアと協働した大花壇の手入れの充実、低木の適切な維持管理により大橋の景観を演出 	
砧	<ul style="list-style-type: none"> ファミリーパーク 	<ul style="list-style-type: none"> 緩やかな起伏をなす広場にお弁当を広げる家族や芝生を走る子どもの笑顔が絶えない空間 	<ul style="list-style-type: none"> 芝刈・草刈を適切に実施するとともに、桜を中心とした樹木は自然樹形や景観を意識した剪定を適宜実施 	
駒沢	<ul style="list-style-type: none"> 大刈込 管制塔を臨む中央広場 	<ul style="list-style-type: none"> 競技場など人工的な雰囲気と和らげる、築山のイメージを取り入れた和の景観 公園のシンボルとみどりが調和した広々とした空間 	<ul style="list-style-type: none"> 緑豊かな空間と修景を形成している大刈込を、季節ごとの適切な管理により維持 大規模イベントの開催や復旧指導等を通じて美観を維持するとともに、花壇管理により彩を充実 	
代々木	<ul style="list-style-type: none"> 中央広場 バラ園 	<ul style="list-style-type: none"> みどりに縁どられた広い空を見られる都心で数少ない場所 約 40 種類のバラが一面に咲き誇る春と秋の公園の主役 	<ul style="list-style-type: none"> 芝刈・草刈による環境維持と、自然樹形を活かした景観木の剪定、展望台からの新宿副都心の眺望確保により、開放感ある空間を創出 作業適期に応じた年間管理による維持と接ぎ木による後継樹育成 	
善福寺川	<ul style="list-style-type: none"> 善福寺川沿いの桜並木 	<ul style="list-style-type: none"> 園内 400 本を越す樹齢 30~40 年の樹勢のよい桜が目を楽しませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 樹勢回復や健全育成に必要な伐採、補植等の措置を講じ桜の開花の質を向上させ、景観を演出 	

和田堀	● 和田堀池の景観	● 大宮八幡宮の樹林と一体となった、都心では珍しくカワセミが生息する深い緑に囲まれた空間	● 水面の落ち葉清掃、中の島の植栽管理、都の生物多様性事業で池内に整備された各施設の状況把握等の適切な維持管理により、水辺環境を保全	
汐入	● 日時計広場	● 周辺花壇と合わせた修景スポット	● ボランティアと協働しハーブ園を充実させ、清掃・草刈等によりハーブ園周辺の美観を維持	
城北中央	● 栗原遺跡と周辺樹木	● 都の指定遺跡である旧石器時代の遺跡と周辺樹木が織りなす他の公園には見られない景観	● 定期的な剪定・草刈等で明るい樹林地の形成に努め、歴史遺跡としての価値を維持しつつ、公開等に耐えうる維持管理を実施	【光が丘】 
光が丘	● イチョウ並木	● イチョウ並木が織りなす夏の緑陰や秋の紅葉といった季節の美しい風景	● 夏の緑陰、秋の紅葉など季節の風景を意識した樹木管理、周辺の休憩・管理施設等の補修や清掃により、安全で明るく清潔な景観を演出	
舎人	● 大池の景観	● 散策を楽しむ木道が整備され、広々とした水景に樹林地が映える景観	● 大池周辺のメタセコイアやヨシなどの手入れを実施し、清々しい水辺の景観を演出	【水元】 
水元	● ハナショウブ ● 水郷景観	● 都内最大級の規模を誇るショウブ田に約 100 品種・20 万本のショウブが咲き誇る ● 広大な小合溜と公園の緑が調和する、東京の水郷と呼ばれる美しい景観	● 維持管理の工夫や品種の充実によりはなしょうぶ園の魅力を向上させ、ショウブ祭りを華やかに彩る ● ハンノキの間伐の計画的な樹林地管理により水辺に接する森林空間の魅力を向上	【舎人】 
篠崎	● アジサイ園 ● 芝山	● 20 種のアジサイを植栽し、アジサイガイドも実施する新たなビュースポット ● 周辺に大きな建物がなく空が広い、明るく広々とした雰囲気	● 下草除去、園路整備等の適切な維持管理とともに、品種の充実によりアジサイ園の魅力を向上 ● 定期的な芝刈・草刈、清掃により、清潔で開放的な空間の維持	【篠崎】 
武蔵野中央	● 原っぱ広場	● 高低差のない平坦地が広がる広大な原っぱ	● 草丈をできる限り均一に保つため、適期に草刈りを実施し、周辺の花壇やサクラと調和した景観を演出	
府中の森	● 公園に調和する日本庭園や自然に溶け込む屋外彫刻などの景観	● 彫刻が有名な緑豊かな公園にあるからこそ目を引くしっとりと落ち着いた和の空間	● 植栽管理や池の管理等による庭園の日本らしさを提供し、隣接する花の広場噴水やプロムナード桜並木等の色々な景観も演出	【武蔵野の森】
武蔵野の森	● ふるさとの丘 ● コニファー園	● 道府県寄贈の展示石で故郷に思いをはせる、公園で最も高く眺めの良いスポット ● 入り口広場の周辺に数多くのコニファーが植栽されたエリア	● 展示石の美観を保つとともに、丘から見渡せる修景池等の周囲の緑豊かな景観の美観維持も合わせて実施 ● 東京 2020 大会記念花壇や背景となるコニファーの手入れによる景観づくりを進め、正面入口にてオリンピック開催の記憶を残す	

小金井	<ul style="list-style-type: none"> ● 桜の園 ● 草地広場 	<ul style="list-style-type: none"> ● 約 430 本の桜が 1 か月にわたり春を彩るお花見の名所 ● ゆるやかな起伏を活かした広々とした草原 	<ul style="list-style-type: none"> ● サクラの名所として、桜の保護対策等を意識した管理を実施 ● 広い空、その周囲を取り囲む雑木林とのコントラストを意識した樹木管理、草地管理により、公園景観の魅力を向上 	
東村山中央	<ul style="list-style-type: none"> ● 東樹林の雑木林の風景 ● バタフライガーデン 	<ul style="list-style-type: none"> ● アカマツやコナラ等、武蔵野の自然が残る明るい雑木林 ● 沢山の蝶が舞う子どもたちに人気の新たなビュースポット 	<ul style="list-style-type: none"> ● 下草刈等の維持管理やマツ枯れ対策等、樹林の生態系、生物多様性を保全する取組を推進 ● 蝶が好む植栽や樹木管理により、公園の新たな魅力を創出 	
東大和南	<ul style="list-style-type: none"> ● 池と流れの景観 ● 史跡戦災建造物 ● 公園北側の落葉樹林 	<ul style="list-style-type: none"> ● 池と流れの水景と植栽の眺望を楽しめる空間 ● 戦争の歴史を今に伝える貴重な戦跡 ● コナラ、クヌギ等の落葉樹を中心とした樹林地 	<ul style="list-style-type: none"> ● 植栽管理や水面の美観維持により、眺望や散歩を楽しめる景観を維持 ● 周囲の平和広場に四季の花を植栽 ● 適切な樹木管理により、新緑や紅葉、夏季の緑陰を感じられる自然環境を確保 	
秋留台	<ul style="list-style-type: none"> ● バラ園 ● 展望広場 	<ul style="list-style-type: none"> ● 東欧風のバラ園は約 110 種類 450 株の色とりどりのバラが咲く公園のシンボル ● 園内を見渡せる八角形のパーゴラが設置された展望台 	<ul style="list-style-type: none"> ● 適正なバラの管理（施肥や病虫害防除、剪定等）や、開花時期を意識した管理を実施 ● 高木剪定等により展望台からの桜並木や西南の山並みの眺望等を確保 	

【小金井】

【東大和南】

【秋留台】

3 資金計画の考え方

(1) ノウハウを活かした計画的な予算執行計画の策定

①長年にわたる公園管理ノウハウ等を活かし、年間経費予測に基づく補修修繕計画を年度当初に立て、計画的に資金を投入します。年度途中の要望等については、優先順位、緊急度に応じて柔軟に対応していきます。補修計画を策定する際、「基本的な補修工事」と「パークビュースポット創出による魅力向上のための改修工事」に分けて計画し、公園施設等の魅力向上に向け重点的に取り組みます。

(2) 民間資金等調達

各公園の周辺企業・団体、来園者等から「都立公園サポーター基金」を募り、これを資金として整備等を行います。なお、協力を受けた民間企業名を屋外広告物条例の範囲内で現地に明示します。

4 要望内容及び対応結果の公表

公園に対する要望事項について、要望内容と処理内容や計画を、対応できないものはその理由も含めてサービスセンター及びホームページに掲載します。

(4) 維持管理業務の進め方

光が丘公園の維持管理については植物管理と施設管理に分けて記入してください。
 植物管理については標準的な作業時期をバーで示すとともに作業内容を記述して下さい。
 施設管理については点検・作業内容や標準頻度、留意点等を記述して下さい。

区分	対象施設／設置場所等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
植物管理	草地		―― 草刈を年6回、草の生育状況をまめ細かく把握し、効果的な時期に実施。 ※バッタなどの昆虫の生息空間として「昆虫原っぱ」を設定し、広場の一角を刈り残す。				――	――					
	カントウタンポ ポ自生地		―― ※年間を通してポランティアと連携した手入れ（草刈、年2回）										
	植込地			―― 中高木剪定				―― 中高木剪定				―― 中高木剪定（落葉樹）	
施設管理	陸上競技場												
	野球場												

※日常巡回での安全点検に加え、樹木点検を年4回実施するほか樹木医による樹木診断を実施。適宜、支障枝・枯枝等を点検、除去し安全を確保。
 ※近年の大型台風、ゲリラ豪雨による倒木被害を軽減するため、過去の被害箇所を分析し、計画的な剪定、伐採等を実施。
 ※環境に配慮し、緑のリサイクル等のチップ化や堆肥化を推進。

日常巡回での点検・清掃、週1回のメンテナンス、年6回の草刈を実施。
 小石などの除去、不陸正等の安全管理を重点的に行い、異常発見の際には、立入禁止措置や、速やかな補修・修繕を行い事故予防に努める。

日常巡回での点検・清掃実施。週1回グラウンド整備。
 管理は、「野球グラウンド維持管理マニュアル」に基づき不陸正等を行う。雨天等は、臨時整備日を設け、排水・ぬかるみ解消等を重点的に行う。表土の補充等の大規模作業を適宜実施。

	テニスコート		<p>日常巡回での点検・清掃実施。月2回整備日を設けブラッシング等整備。管理は、人工芝摩耗防止のための目砂補充や均一化作業等を行う。また、利用者にプレー後のブラッシングについて協力を仰ぐ。その他、異常発見の際には、速やかな補修・修繕を行い事故予防等に努める。</p>
	弓道場		<p>常駐職員による日常点検・清掃実施。 週1回整備日を設け、重点清掃や草刈を実施。 ロボット芝刈り機等の導入により効率的な芝刈り作業を実施。</p>
	受付・更衣室		<p>サービセスター受付には飛沫防止シートを設置するとともに、アルコール消毒液等を備え付ける。 更衣室は定期的な消毒や換気等により、衛生管理を実施。</p>
	バード サンクチュアリ		<p>草刈や間伐など植生管理（通年）、外来水性生物捕獲作業（年40～50回程度）を実施。 野鳥等の生息環境の維持を目的とし、外来生物防除の際は普及啓発も併せて実施。</p>
施設管理	遊具	フィールド アスレチック	<p>日常巡回での点検、月1回の職員による点検票を使用した点検、年2回の（社）日本公園施設業協会規準に基づく専門家の精密点検、推奨交換サイクルに基づく消耗部材の交換を適宜実施。 異常発見の際には、立入禁止措置や、速やかな補修・修繕を行い事故予防に努める。</p>
	便所	園内全域	<p>アメニティ巡回での便所ブースの確認及び清掃を毎日実施するほか、洗浄機等による床やブース内の定期清掃、利用の多い便所等において内外壁の高圧洗浄等を行う重点清掃も合わせて実施。 日常的な清掃では、ペーパーや手洗い石鹸の補充、便所面台、洗面台、衛生器具等の汚れに即時に対応し、美観を確保。</p>
	排水施設	園内全域	<p>日常巡回での確認・簡易清掃、年3回以上の重点清掃を実施。 日常巡回では排水施設の状態確認を行い、溜まった水や土砂等を除去。 重点清掃では、過去の被害をもとに、豪雨による浸水等を防止するため、出入口や主要園路等の排水施設を重点的に清掃。また、蚊の発生を抑制するため長期間の水の滞留が見られる場所は高圧洗浄等を実施し排水機能の早急な復旧に努める。</p>
	照明施設	園内全域	<p>夜間巡回での不点灯確認（年12回）、自家用電気工作物の法定点検（年6回）、公園灯腐朽箇所等の点検を実施。 良好な状態を維持するため、異常発見の際には、速やかな補修・修繕を実施。また、自家用電気工作物については、電気主任技術者として選任したものにより実施。</p>
	水景施設	けやき広場	<p>日常巡回での点検・清掃実施。水質検査（夏季：7月中旬～8月末まで実施）と薬剤散布（適宜実施）を実施 噴水・流水設備点検を年3回実施。これら対策により、水質管理と安全確保を適切に行う。</p>

5 防災業務計画

(1) 防災公園グループとしての平常時の対応

私たちは、「東京都地域防災計画」や「震災時利用計画」等を踏まえ、公園が発災時に大規模救出救助活動拠点や避難場所としての機能を的確に発揮できるよう、マニュアル類の整備や防災訓練等の積重ねによる防災対応力向上に努めるとともに、都や地元区市、自衛隊等防災関係機関、地域住民との連携を強化してきました。

今後も、都が策定した新たな防災に係る計画等を踏まえた上で、温暖化に伴う異常気象災害や、新型コロナウイルスを含めた感染症蔓延など、複合災害対応も積極的に情報を更新しながら、取組を一層強化してまいります。

私たちは、東京都総合防災訓練や自衛隊統合防災演習への参加、震災対応を検討する総合防災部の各種 PT への参加等を通じて、大規模救出救助活動拠点確保のための実践的な体制構築を進めてきました。

今後は、自衛隊や消防・警察をはじめ救急医療関係等活動拠点への展開が想定される機関や、東京都現地機動班等との連携を更に強化し、発災時に各公園等において的確な対応が迅速に講じられるよう取組を進めます。

1 大規模救出救助活動拠点確保の取組

(1) 大規模救出救助活動拠点確保のための体制強化

- ・東京都総合防災訓練等これまでの訓練結果や自衛隊が毎年実施する事前偵察時の情報連携、東京都総合防災部で策定を進めている、「東京都現地機動班活動要領」等を踏まえ、ヘリポートや緊急車両等の通行動線確保等について、公園ごとに対処手順をまとめた「公園別震災時対応マニュアル」を継続的に改訂します。
- ・このマニュアルに基づき、救出拠点の要でもあるヘリポート等の確保訓練を、SC 職員だけでなく、協会独自の「震災時職員参集計画」に基づき参集する参集者も含めて実施します。
- ・ヘリポート確保等に必要な資材（ロープ、杭等）や案内掲示板の確認・更新等を定期的に行います。
- ・外水氾濫を念頭に、命・都財産を守り、迅速な復旧体制確保を目的とした職員避難計画を策定します。【木場、篠崎、東白鬚、汐入、舎人、水元】

(2) 防災関係機関との連携強化

- ・発災時にヘリポートの確保等を東京都現地機動班と連携して速やかに実施するため、連携体制や役割分担の改善等に向け、東京都等との協議を積極的に進めます。
- ・東京都現地機動班や自衛隊の参加する防災訓練に積極的に参加し、関係機関との連携強化を図ります。

2 避難場所等に係る取組

(1) 「防災協力協定」、確認書による地元区市との連携強化

私たちは、防災公園が避難場所等としての機能を十分発揮できるよう、避難場所の運営主体となる地元区市との防災協力協定、確認書の締結を都と連携して進めてきました。引き続き各公園の地元区市との協定締結を目指し協議を進めるとともに、協定に基づき平常時・発災時における区市との協力体制の強化を図ります。

① 防災協力協定、確認書に基づく取組の強化

- ・発災時に、市民の命を守るため、互いの機能を補完できる関係性を構築すべく、平常時からの地元区市との連携による共同での普及啓発、防災訓練の実施を重ねていきます。

② 区市との「防災ホットライン」の構築

- ・発災時に地元区市との連絡手段を確保するため、公園への区市の防災無線等の設置を働きかけ、各公園と地元区市との間に「防災ホットライン」を構築します。防災無線設置済みの公園では情報伝達訓練を実施します。

③ 地元区市との密接な協議

- ・地元区市と、避難場所としての災害時の対応等についてより具体的に、密接に協議を進めます。
- ・風水害時に緊急車両の園地への退避等、新たな取り組みについて区市や都と検討協議していきます。

④ 防災公園等に関する広報・普及の推進

- ・区市の広報ルートを通じ防災訓練の予定、防災普及啓発情報などを発信できるよう協力を依頼します。
- ・区市と連携し、地域住民への公園の防災上の役割等の周知を積極的に実施します。

(2) 地域との連携強化

私たちは、地域住民や学校、福祉施設、企業・団体等に積極的に働きかけ、地域連携防災訓練を積み重ねてきました。これまで築いてきた関係を一層強化し、公園の防災機能をより高めていきます。

① 防災をテーマとした公園連絡協議会の開催

- ・地域との意見交換の場として開催する「公園連絡協議会」において、必要に応じて防災をテーマとすることで、地域住民等の意見を、防災公園事業に反映するとともに、東京都や地元区市へも情報提供します。

② 地域と連携した防災訓練の実施

- ・地域への働きかけを積極的に行い、防災訓練に参加する連携先の拡大や訓練内容の充実を図ります。
- ・若い世代への防災意識向上のための情報提供、訓練を行い、地域全体の防災対応力強化を図ります。
- ・風水害を念頭にしたワークショップを開催し、タイムラインやハザードマップについて普及啓発を図ります。

(3) 避難者等への情報提供の強化

- ・公園周辺のコンビニや給水活動拠点等を掲載した「公園別地域防災マップ」を更新し、配布します。
- ・発災時の情報提供に新設されたデジタルサイネージを有効に活用できるよう、フォーマット準備、運用訓練、を実施し、避難者・帰宅困難者等を支援します。

(4) 帰宅困難者支援対策の強化

- ・幹線道路に近接する公園などで、帰宅困難者支援を想定した防災情報提供訓練等を実施します。

3 公園管理者としての防災力向上の取組

私たちは、独自の「震災対応マニュアル」を作成し、夜間等参集体制の構築や発災時対応の明確化を図るとともに、防災・参集訓練等を積み重ね、発災時の体制を完備しています。この体制の更なる強化に向け、防災対応力の向上に継続的に取組むことで防災公園管理者としての責務を、確実に果たしていきます。

(1) 東京都との密接な連携

- ・東京都と連携して、公園の防災機能を更に充実させるため、建設局と定期的な協議を継続的に実施します。

(2) 「震災対応マニュアル」等の充実

- ・独自の「震災対応マニュアル」を、防災訓練結果や新たに配備された防災設備に加え、複合災害対応を考慮しながら、常に更新・改善していきます。
- ・全社的な発災時対応力や事業継続力を強化するため、BCP（震災編）の検証と改善を行います。

(3) 勤務時間外参集体制の構築

- ・「震災時職員参集計画」に基づき、公園近隣に在住する職員による勤務時間外参集体制を継続します。なお職員には財布等に入れて持ち運びできる「防災カード」を配布することで、発災時の緊急連絡先等を常時確認できるようにし、迅速かつ的確な対応につなげます。

(4) 職員の防災対応力強化

- ・実施時期や早朝・夜間等発災時間等の想定を変えた、実効性の高い防災訓練を実施します。
- ・災害対策本部、グループ拠点、現場対策班等で指揮者となりうる職員等を対象に、発災時など、非常事態に的確に対処するための危機管理研修を実施します。
- ・新規採用職員に対し、レベルに合わせた研修を実施することで、組織としての防災対応力の底上げを図ります。

(5) 「防災推進リーダー」の防災対応力向上

- ・各公園に、職員の防災力向上や防災に係る地域連携を促進するため、原則防災士を取得した防災推進リーダーを2名以上配置します。
- ・公園ごとの防災対応強化に加え、防災推進リーダー会議を定期開催し、グループ全体で情報連携を強化することで、防災公園全体の防災対応力向上につなげます。

(6) 防災関連資材等の充実

- ・防災訓練の結果等を検証し、発災時に必要な資材の充実を図ります。
- ・新型コロナウイルス禍でも、職員の安全を確保しながら災害対応ができるよう、マスクや消毒液、使い捨て手袋等の感染症対策備品の備蓄を強化します。

(7) 発災後 72 時間以降の対応強化

- ・災害時の初動対応訓練に加え、公園ごとの状況に即した発災後 72 時間後以降の想定をし、その想定を踏まえ、地域防災計画上のタイムラインに沿った机上訓練を重ねます。また、想定に即して地域防災計画の見直し提案をするなど、都や区市等関係機関と協議を継続的に実施し、より実践的に対応できる力を養います。

4 都民の防災対応力を高めるための普及啓発の強化

私たちは、地域住民が共助の担い手として公園管理者と協力して活動できるよう防災公園の役割や防災施設を紹介する普及啓発を進めてきました。今後はより広く迅速な情報発信に取り組み、また外国人や子どもなどを含めた幅広い対象へと普及啓発を進めていきます。

(1) 多様な手段による防災情報の発信

- ・防災公園独自のホームページや公園ごとのツイッターを活用し、防災公園や防災対応等に関する情報や、各公園での防災訓練やイベント情報等、動画などのデジタルコンテンツも交えきめ細かく発信します。
- ・デジタルサイネージを活用し、上記動画等の配信や、公園ごとの防災設備を含めた、災害時に役立つ情報を放映し、日常的に防災情報に触れてもらえる環境をつくりあげます。



- ・普段から何気なく公園を利用している人にも防災情報を得てもらえるよう、園内掲示板へのハザードマップ掲示、公園灯などに想定浸水高標記をするなど、公園ごとの防災情報を目に入る形で掲示・展示し、公園全体を防災展示館に見立て、普及啓発を進めていきます。【篠崎、東白鬚】
- ・木場キッズリアムと連携して、日常的に公園を利用している近隣住民や在勤者等に対し、都市防災における公園の役割や防災情報を、展示、レクチャー、動画等を通じて情報発信します。【木場】
- ・防災公園の機能や役割等を紹介する「防災公園総合ハンドブック」等を作成・配布し、HPでも防災情報を入手できるようにします。



(2) 外国人を対象とした防災情報の提供

- ・防災公園 HP を多言語対応とし、基本的な防災情報を提供します。
- ・地元の観光協会や区市の外国人支援団体等と協力し「防災公園総合ハンドブック(多言語版)」を紙面に加え、WEB上でのダウンロードができる形式にし、幅広く配布します。

(3) 青少年を対象とした防災公園教育の強化

- ・「子ども向け防災公園ハンドブック」や、防災公園の設備等を案内する動画等を作製し DVD にまとめ、防災訓練等で活用するとともに、地元の学校等に配布します。
- ・熊本地震等でも、防災活動の担い手として注目を浴びた、中・高生などに対する防災普及活動を強化します。

(4) 公園の防災機能及び防災関連施設の周知・PR 促進

- ・大規模救出救助活動拠点の機能や公園の防災関連施設の使用方法等の解説・サイン等を、東京都と十分に調整し、公園内に設置します。
- ・高齢者や要配慮者に向け、回覧板や区市の広報誌などを利用した紙面での防災情報提供を試行します。

(2) 防災公園グループとしての災害時の対応

私たちは、24 時間 365 日、いかなる時間に発災した場合でも的確、迅速に対応できる体制とすべく、全社的に共有する「震災対応マニュアル」を整備するとともに、日ごろから研修や訓練を重ね、環境変化などに現状が即しているかどうか等の見直しを継続的に実施しています。

また、通信手段複数回線化やインターネット回線の確保により、震災時の連絡体制を盤石なものとしています。

1 災害時の組織体制

(1) 災害対策本部・現場対策班の設置

発災時には、直ちに統括組織として本社等に災害対策本部を、公園 S C には現場対策班を設置します。

勤務時間内の場合には勤務職員が、時間外の場合には「震災時職員参集計画」に基づき、各公園等に参集した複数の職員が、直ちに「災害対策本部」及び「現場対策班」を立ち上げます。

「災害対策本部」は、発災の時間帯や被災状況などに応じ、本社またはグループ拠点公園のいずれかに設置します。

(2) 役割分担

① 災害対策本部の役割

(災害対策の統括)

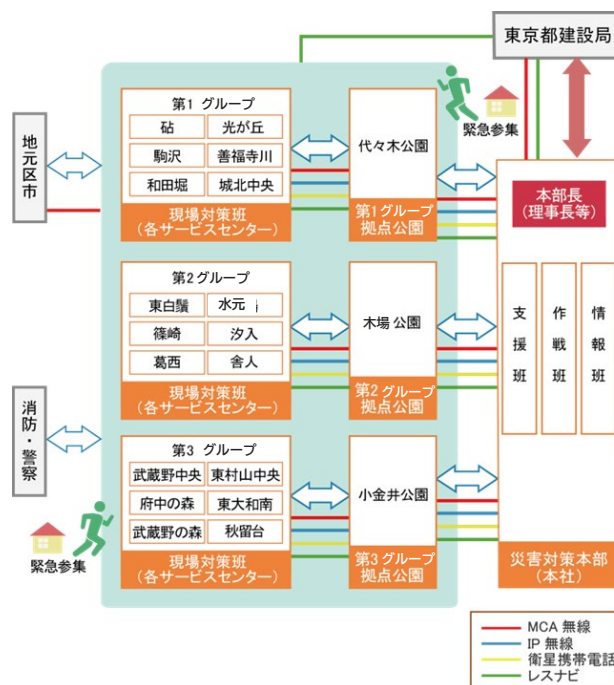
- 各公園の職員の参集状況、被災状況、避難場所等や大規模救出救助活動拠点の状況等を把握し、現場対策班等に必要な対応を指示します。
- 東京都との情報連絡の窓口を担い、迅速かつ的確に都に各公園の被災状況等を報告し、東京都の指示を受け、現場対策班等へ指示します。
- 東京都やその他の関係機関等に必要な支援を要請する等、対外的な組織等と調整します。

② 現場対策班の役割

- 園内被災状況、避難者状況等を把握、災害対策本部等に報告し必要な対策をとります。
- 東京都現地機動班等と協力し、ヘリポートの確保や緊急車両動線の障害物の除去等、大規模救出救助活動拠点の機能確保に必要な対応を行います。
- 公園に到着した自衛隊や防災関係機関等に対し、必要な支援を行います。
- 避難者等への応急・救護対応や、情報提供・誘導等の支援を行います。
- 防災トイレやかまどベンチ、防災パーゴラ等の防災関連施設を、円滑に運用支援します。
- 防災協定、確認書に基づき避難場所等運営主体である地元区市への情報連絡等により必要な支援を要請します。

③ グループ拠点の役割

- 災害対策本部と現場対策班の情報連絡をサポートするため、エリアごとにグループ拠点公園を定めます。
- グループ拠点公園は現場対策班からの報告の集約と、緊急性・重要性に応じた判断、指示をするとともに、重大事項については災害対策本部への報告、災害対策本部の指示事項の現場対策班への指示等を行います。



2 指揮命令体制

(1) 協会全体の指揮命令体制

災害対策本部に本部長を置き、防災担当部長が補佐します。本部には作戦班、情報班、支援班を設置し、本部運営を行います。本部長の指示は情報班→グループ拠点公園→現場対策班の流れで伝達されます。

(2) 災害対策本部の指揮命令体制

本部長の指示の下、作戦班、情報班、支援班は以下の活動を行います。

- 作戦班：東京都との連絡、総合的な状況判断、災害対策に関する立案・調整・協議
- 情報班：グループ拠点等との通信連絡、参集状況、被害状況の集約
- 支援班：必要物資の調達、作戦・情報班の後方支援並びに本部全体の庶務的な業務

(3) グループ拠点公園内の指揮命令体制

グループ拠点公園内に班長を置き、班長は災害対策本部や現場対策班との情報連絡の指揮をとります。

(4) 現場対策班内の指揮命令体制

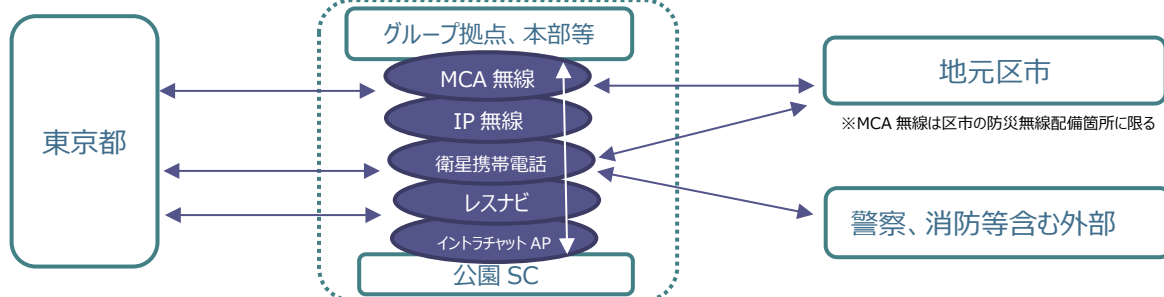
現場対策班内に班長を置き、班長は事務所内担当、園内点検担当、避難者対応担当、駐車場担当の職員を定め、それぞれの対応に当らせます。

3 連絡体制

発災時の連絡手段として「災害時通信手段複数回線化」を確保し、震災時の防災対応の要となる情報連絡体制を盤石なものとしています。

(1) 災害時通信手段（複数回線）の確保

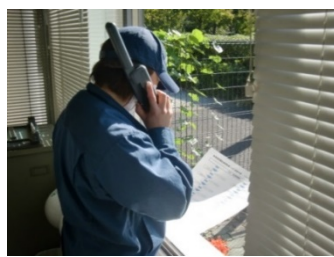
発災時の通信手段として、通常的手段以外に下記の通信システム等を配備・使用可能としています。



- ①MCA 無線：都配備、協会独自配備の MCA に加え、地元区市 MCA を使い分け、情報連絡を実施
- ②IP 無線：MCA 無線の補完的な通信手段であり、機動性があるため SC と園内点検担当職員間での通信に使用
※NTTFOMA 通信網とインターネット回線を使用する新しい無線システムで震災時も原則通信規制が実施されない。
- ③衛星携帯電話：MCA 無線、IP 無線を補完する通信網（外線電話機能）として活用
- ④レスナビ：東京都のレスキューナビゲーションシステムにより、被害状況等を東京都に直接送信
- ⑤イントラチャット AP：詳細情報、写真情報等を社内で共有する際に使用



IP 無線機



衛星携帯電話通信訓練



災害対策本部設置訓練

(2) 公園協会のインターネット接続体制の強化

- ・災害対策を強化した外部サーバーを使用し、国内遠隔地に設置された複数のサーバーの相互補完により発災時にもサーバー機能が維持できます。
- ・パソコン、通信ルーター等の電源を、各公園の発電機等で確保し、SC のイントラネット、インターネット接続環境を維持します。

4 区部および多摩部のネットワークの構築

(1) 区部・多摩部ネットワークの構築

- ・区部 14 公園は代々木公園、木場公園を拠点とする 2 つの区部ネットワーク、多摩部 7 公園は小金井公園を拠点とする多摩部ネットワークを構築し、相互支援や情報共有を行います。
- ・拠点公園となる代々木・木場・小金井公園については、発災時の拠点の役割が担えるよう参集体制等を強化します。

(2) ネットワーク内の体制

- ・複数回線化された通信手段を使用して、拠点公園に情報を集約する情報伝達訓練の実施により、防災情報網を強固なものにしています。
- ・各公園の職員および参集者は共同での防災関連施設点検や防災訓練に参加し、自分が所属または参集する公園以外の公園にも精通することで、相互に補完的な役割が担えるようにしています。
- ・発災時の公園間の人的連携・協力を可能とするため、各公園にノーパンクタイヤ自転車を配備します。
- ・多摩部については、神代植物公園も含め相互支援が可能となるよう平常時から連携を強化していきます。

(3) 防災公園以外の都立公園との連携

- ・防災公園グループ以外の、公園協会が管理する都立公園と相互支援体制を構築します。

(3) 地域との連携、防災訓練の実施

私たちは、これまでに職員全員による様々なフェーズを想定した防災訓練を積み重ねてきました。その成果として、東日本大震災発生時には、発災直後に初動体制を立ち上げ、東京都と連携して的確な対応を行い、早期の被害状況の把握、利用者等の誘導と安全確保等を行った実績があります。

今後は、日頃からの社内訓練に加え、地元区市や自治会等の関係機関との連携を更に強化し、防災公園の機能を普段からより多くの地域住民に周知することで、住民間の自助・共助の取組向上の拠点となり、災害時に最大限の機能発揮ができるよう管理運営を行っていきます。

また、地球温暖化に伴う異常気象災害の増加や、新型コロナウイルス等の感染症が蔓延している中での避難場所の安全確保など、新たな環境変化へ柔軟に対応していけるよう、積極的に情報収集やマニュアルの改訂、都や地元区市との協議に加え、地域との複合災害への取り組み協議をすすめ、地域ぐるみで防災力を向上させていきます。

1 初動体制立ち上げの準備

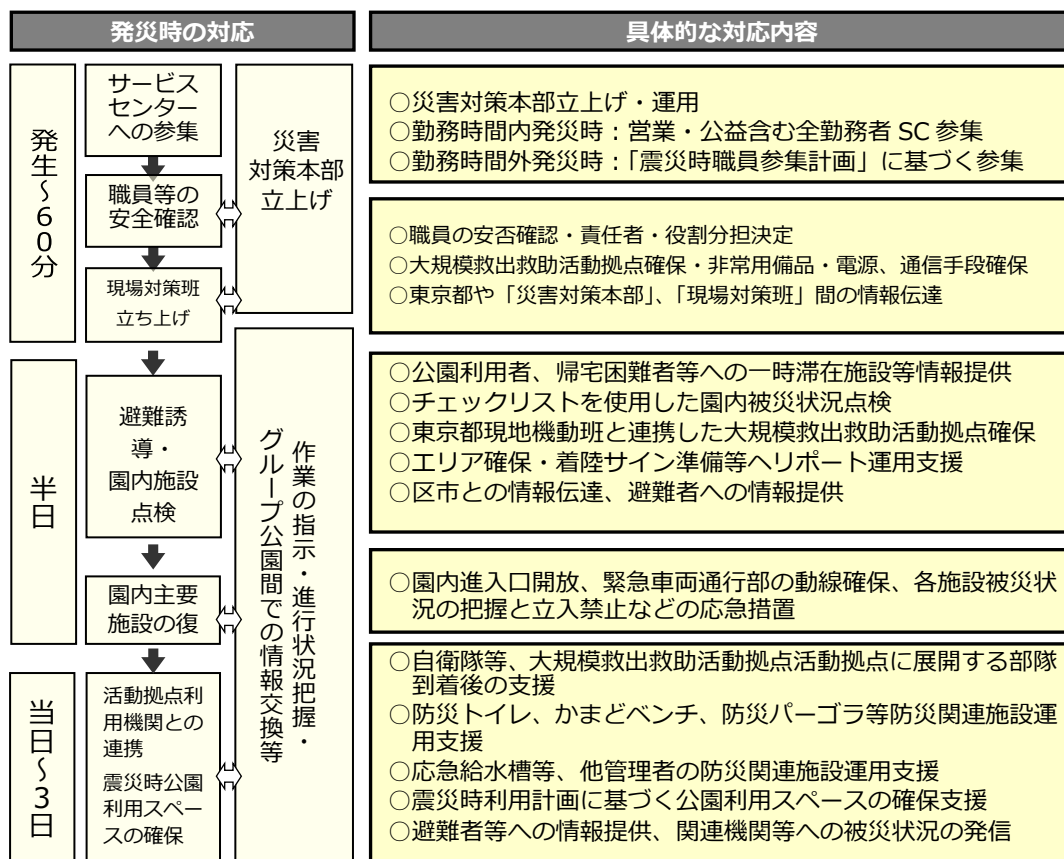
(1) 初動体制の立ち上げ

- ・震度や発災時間帯に応じて参集方法を定めた「震災対応マニュアル」により勤務時間内には30分以内、勤務時間外でも参集者により1時間以内に災害対策本部・現場対策班を立ち上げる初動体制を確保しています。
- ・震度5強以上の地震が発生した場合、「震災時職員参集計画」により、各公園等に迅速な参集を行います。

(2) 職員の防災対応力向上のための訓練の実施

- ・「震災対応マニュアル」に基づき、下表の対応を確実に遂行できるよう、次の防災訓練を実施しています。
- MCA 防災無線、IP 無線による情報伝達訓練（毎週）
- 衛星携帯電話による情報伝達訓練（毎月）
- 防災関連施設運用、大規模救出救助活動拠点確保等の職員対応力向上訓練（年6回）
- 複数公園職員が共同で行う合同防災施設運用訓練（年2回）
- 勤務時間内発災・夜間発災を想定した訓練（それぞれ年1回）
- 建設局との初動対応訓練（年1回）
- 東京都現地機動班等との連携訓練に参加

【時間軸に沿った発災時対応】



2 地域との連携の強化策

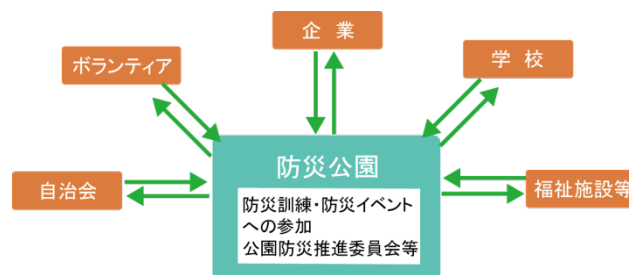
私たちは、地域の様々な主体と連携した防災訓練や防災イベントの実施等により、地域との連携を強化してきました。今後は、このような連携を更に強固なものとしつつ、新型コロナウイルスへの対応を考慮した新たな普及啓発方法を導入し、引き続き公園の防災力を向上させるとともに、公園が地域の防災活動の拠点となるような管理運営により、地域の防災力向上に寄与していきます。

(1) 公園の防災力強化のための地域連携

- ・防災訓練等の参加者から希望者を募り、「公園防災推進委員」に任命し、「公園防災推進委員会」を開催します。また、防災訓練の企画等への協力を依頼し、連携して訓練を実施します。

(2) 公園を拠点とした地域の防災力の向上

- ・地域での防災訓練や普及活動に積極的に協力し、職員による講義・訓練指導など、防災に関する普及啓発を推進します。



公園を拠点とした地域の防災力向上の取組

3 防災訓練の充実による地域防災力の向上

発災時、避難場所としての公園の機能を十分に発揮させるためには、地域の人々が公園管理者と連携しつつ共助の担い手として積極的に避難場所の運用に協力してもらえるよう、防災意識を高めていくことが重要です。これまで実施してきた地域連携訓練や防災イベントのノウハウを生かしつつ、関東大震災100周年を迎えることを更なる契機とし防災訓練等の内容を一層充実させることで地域の防災力を高めていきます。

(1) 防災普及啓発の推進

- ・より多くの住民に公園での防災訓練やイベントに参加していただくよう、防災に関する普及啓発を推進します。
- ・公園周辺の自治会等に働きかけ、職員が防災公園の役割や機能に関する説明を行う等、防災に関する普及啓発を推進し、地域の防災意識を高めます。
- ・防災施設見学会や、灯りづくりなど簡単な防災スキルが体験できるワークショップ等の開催により、地域住民等が防災公園等に関心を深めるきっかけをつくります。
- ・自主事業の一環として、地元の自治体や警察、消防等の関係機関、自治会、学校、企業が参加する防災フェスタ等を開催します。また、防災関連企業の出展等も誘致し、フェスタの開催を契機に様々な主体が連携する機会を提供します。
- ・防災訓練やイベントに参加した子どもを「子ども防災公園博士」に任命し認定メダルを授与する等、子どもの関心を深める工夫を行います。
- ・新型コロナ等、感染症対策を機に、新たな普及啓発方法として、動画発信やウェビナー、アプリ等での情報発信を展開することで、今まで防災に関心が薄かった人たちへも積極的な普及を試みます。

(2) 地域連携訓練の内容強化

- ・光が丘公園での共助訓練等の実績を活かし、公園管理者の支援が不十分な場合でも住民自ら防災関連施設の運用に協力できるようにする防災訓練の実施を拡大します。
- ・防災関連施設の見学から実際の運用へと防災訓練の内容をステップアップするなど、訓練を通じて住民の防災意識の向上を図ります。
- ・風水害や、強い地震の際に複合災害が想定される地域では、それらの想定をもとにした机上訓練や、区市との情報連携を強化することで、地域の防災力向上を図ります。
- ・自治会等に協力を得て、高齢者や障害者、外国人、乳幼児など、災害時要配慮者への支援を想定した防災訓練を実施します。
- ・今まで防災に関心が薄かった層へも防災に関する情報を周知するため、多様化する社会的な課題（介護、保育等）やニーズ（アウトドア、ペット等）を介した、様々な切り口での防災普及訓練を展開していきます。



自治会との共助防災訓練（光が丘）